

本学会では、全国各地で世話人同士のネットワークや研修の場をつくり、話し合いや情報交換ができるように、その中心となる役割(コアスタッフ)の方向けの研修を行いました。本報告書では、全国各地域のコアスタッフが集まった研修の報告と、それを受けて各地で実際に行った世話人研修の実施方法と成果を報告しています。特に、研修方法の一つとして「インシデントプロセス法」、「問題解決型」のグループワークの方法についての解説も掲載しています。

平成19年度障害者保健福祉推進事業等補助金受託事業  
2007年度 コアスタッフ研修報告書

## よりピアな関係を求めて、 地域のグループホーム同士の 横のつながりをつくろう

全国地域に、グループホーム世話人の話し合いの場を

発行日 2008年3月31日  
編集 障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会  
代表者 室津滋樹(障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会代表)  
事務局 〒187-8570 東京都小平市小川町1-830 白梅学園大学 堀江研究室  
FAX 042-344-1889  
E-mail info-gh-gakkai@shiraume.ac.jp  
http://www.gh-gakkai.com

## 2007年度コアスタッフ研修報告書

# よりピアな関係を求めて、 地域のグループホーム同士の 横のつながりをつくろう

全国地域に、グループホーム世話人の  
話し合いの場を

障害のある人と援助者でつくる  
日本グループホーム学会

平成19年度障害者保健福祉推進事業等補助金受託事業

目次	<b>はじめに</b> .....	1
----	-------------------	---

## **1. 2007年度コアスタッフ研修会報告**

(1) コアスタッフ研修報告(東日本ブロック) .....	4
(2) コアスタッフ研修報告(西日本ブロック) .....	8
(3) 全国コアスタッフ研修報告 .....	13

## **2. 各地の研修**

(1) 概要 .....	16
(2) 各地の研修報告 .....	20
①北海道 .....	20
②福島 .....	22
③群馬 .....	33
④横浜 .....	35
⑤神奈川 .....	38
⑥長野 .....	41
⑦三重 .....	43
⑧兵庫 .....	46
⑨鳥取・島根 .....	47
⑩徳島 .....	49

## **3. 今後へ向けて**

(1) 今年度の成果 .....	51
(2) 今後へ向けて .....	52

<b>参考資料</b> .....	53
-------------------	----

# はじめに

～ 全国各地域にグループホームの世話人の話し合いの場を ～

## 1, グループホームの援助者の置かれている状況

平成 18 年度から、日本グループホーム学会では、世話人研修に関する研究を行ってきました。

1 つは、全国どこでも使えるような世話人研修用テキストの作成。もう 1 つが、世話人研修のあり方に関する検討です。

1 つ目の、テキストに関しては、作成するだけではなく、これをどのように使っていくのかも含めての検討を重ねています。

次に、2 つ目の研修のあり方に関する検討ですが、検討の中で、やはり世話人という仕事の特性上、なかなか研修を受けにくい環境と条件にある、ということが問題として挙がってきました。理由はいくつかありますが、大きくは

- ① 自分の判断だけで、研修に参加する事が難しい立場にある。(人によっては情報も入ってこない)
- ② 1 日の中での仕事の時間帯が、朝と夕方となっているところが多く、昼間の時間帯で自由になる時間が短い。そのため、移動に時間がかかる場所での研修には参加しにくい。

ということになります。

このような問題を踏まえて、

- 1・研修費用がかからないようにする(交通費を含め)。
- 2・移動時間がかからない(=交通費もかからない)ように、世話人さんに来てもらうのではなく、なるべく世話人さんが働いている所に近い場所で、講師のほうから出向いて、行うような研修にする。

と言うようなやり方で、いくつかの場所でモデル的に研修を行ってみました。結果、研修を受ける側(世話人)からは好評でしたが、新たな課題が浮かび上がってきました。

1 つは、小域での研修を考えていった場合に、講師の問題なども含めて人材の確保が難しいということ。

2 つ目は、ネットワークの構築も含めて誰かきっかけになるような人がいないといけないということでした。

このような事から、人材育成として「コアスタッフ研修」を行っていくことになりました。

## 2, 話し合うことの意味について再確認しましょう

### 孤立を防ぐ

グループホームの援助という仕事は、一人一人とじっくり関わってやりがいがあると感じている人は多いと思います。

一方、入居者の生活を支えるという責任ある仕事であることと、長時間にわたって一人で勤務することも多いという環境から、行き詰まってしまうことも多い仕事です。入居者とうまくいかないと思っている時にそのことを話せる人、相談できる人がいるかどうかで負担感は大きく違ってきます。

これらの不安や負担を軽減し、安心して援助という仕事に向き合うためには、話のできる環境を確保しておくことが必要になります。

### 話のできる環境の確保

グループホームの勤務は、朝、夕に分散されるため、昼間自由に使える時間が限られます。様々な研修の機会を利用して、いろいろなことを考えてみたいと思っても、研修のために時間をかけて遠くまで出向くことには限度があります。

また、入居者にとっては大切な条件である小規模であることも、壁として立ちほだかります。個々のホームでは援助者の数も少なく、世話人さんが交代で勤務するために、世話人さん同士が顔をあわせてゆっくり話しあう機会や、自前で研修を企画することが困難です。

同僚、サービス管理責任者、運営者等、現場の状況がわかりあえて、話を聞いてくれたり、困ったときには相談にものってくれる人が職場の中にいることは、とても重要なことですが、なかなかそうならないこともあります。

### よりピアな関係を求めて、地域のグループホーム同士の横のつながりをつくらう

千葉での世話人研修の感想として、世話人さんから「今まではこのようなことをやりたかったがどうして良いかわからなかった。」もしくは、「普段いろいろ困っているがそれをどのように解決していけばいいのかすらもわからなかった。」「自分ひとりではどうしようもない。」などといったことが出されましたが、同じ地域にあるグループホームの世話人さん同士がつながり、時々、顔をあわせる機会を作ることは大変、役に立ちます。

お互いが顔見知りになり、それぞれのホームの話を聞くことをきっかけとして、お互いのグループホームを見学したり、研修の場としてお互いが活用するという交流をはじめている地域もあります。ちがうホームの様子を見ることで、新鮮な発見があったり、自分の援助を客観的に見つめ直すこともできるかもしれません。

普段から閉鎖的になりがちな世話人さんという仕事の特性上、ネットワークを作ってい

ろいろな問題を話し合ったり、情報交換をするということはとても重要であると考えます。

### **3, コアスタッフ研修に参加した人の役割**

地域のしくみは自治体によって異なりますが、その地域のグループホームを支援している相談支援担当者やサービス管理責任者などが中心となって呼びかけ、地域のグループホーム同士のつながりをつくりましょう。

定期的に地域のグループホームの世話人さんが集まり、お茶でも飲みながら日頃の援助について話し合い、お互いに情報交換をしていきましょう。コアスタッフ研修に参加された人たちが地域に戻って、話し合いの場を呼びかける中心的な存在になってください。

例えば千葉県では、県の事業としてグループホーム支援ワーカーを配置しており、その人が中心となって話し合いの輪が作られています。また横浜市では、グループホーム連絡会という横のつながりを作って、援助者同士が集まったり話し合いをしたりしています。

コアスタッフ研修に参加されたみなさんが、それぞれの地域の実情にあわせて、世話人さん同士の集まれる機会を設け、援助について意見交換できる取り組みをつくっていただきたいと考えています。

# 1. 2007 年度コアスタッフ研修会報告

## (1) コアスタッフ研修報告（東日本ブロック）

荒井 隆一（日本グループホーム学会運営委員）

世話人研修について、昨年より「世話人研修テキスト作成」や「研修のあり方の検討」などを行ってきました。

この研修のあり方の検討の中では、より世話人さんに身近なところで行えるような研修を、モデル的に行ってきましたが、やっていく中で大きく2つの課題が出てきました。

1つは、小域での研修を考えていった場合に、講師の問題なども含めて人材の確保が難しいということ。2つ目は、ネットワークの構築も含めて誰かきっかけになるような人がいないといけないということです。このようなことから、今回東日本と西日本の2ブロックにおいて、1泊2日の研修合宿を行う事になりました。

なかなかすべての県の方に参加していただくのは難しいため、今回はとりあえず北海道・山形県・福島県・群馬県・千葉県・神奈川県・横浜市・長野県の8箇所よりそれぞれ数名ずつ、今後各地域においての研修に取り組んでいただけそうな方、37名の方に集まっていたいただきました。

事前調査を行ったところ、今回参加した方の地域で世話人研修が行われているところは半分程度、しかし頻度はあまり多くないところがほとんどでした。また、同一法人での研修が多く、他法人との交流などの機会に関してもほとんど無いことがわかりました。地域によっては連絡会のようなものが確立しており、そこが機能しているところに関しては行えています。しかし、ほとんどの地域ではそのようなものが無いため、運営者が自主的に世話人さんに対しての研修を行っていたり、県内全体での研修と言うのが現状です。

<スケジュール>

9月16日（日）

時 間	内 容
13:00	・代表挨拶 ・合宿のオリエンテーション ・研修を始める前に
13:30	・テキストの活用方法
14:00	・グループホームと地域防災に関する講義
18:00	<夕食>

19:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「これからのグループホーム援助のあり方」をどう伝えるか ～今、求められる GH スタッフの資質と課題～</li> <li>・「特別な支援が必要な人への対応と権利擁護」をどう伝えるか ～精神障害を併せ持った人、性の問題、支援困難な人への援助から～</li> <li>・「今後の福祉施策から見た GH スタッフの新たな役割について」どう伝えるか ～自立支援法の行方と GH の今後の課題から～</li> </ul>
20:30	・各地域の問題、課題の報告

9月17日（月）

時間	内容
7:00	<朝食>
9:00	・研修の手法を学ぼう（インシデントプロセス法）
11:30	<昼食>
12:30	・研修の手法を学ぼう（インシデントプロセス法）
14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の研修モデルの作成</li> <li>・発表</li> </ul>
16:00	解散

### ～テキストの活用方法について～

出来上がったテキストの説明と、活用方法に関する話と共に、テキストの中でも大事な部分に関しては、1日目の夜のリレー講義にて、要点と世話人さんにどのように伝えていくかなどの講義を行いました。今回、この部分に関する時間が日程の都合上なかなか取れなかったのですが、参加者の方からは「今後世話人研修を企画するにあたり何を基本とすればよいのかを教えてもらえた。グループホームでの生活や生活を支援するということの基本を忘れないように研修を組む必要があると感じた」「グループホーム援助のポイント」そして詳細版を、活用し、グループホームの生活について世話人と検討していきたいと感じました。」などの声が聞かれました。

### ～グループホームと地域防災について～

北海道学会でも講演いただいた、神戸大学の西一嘉先生にお願いし、講義と演習を行いました。演習に関しては、防災対策と言うことで、地震と火災のグループに分かれて時間・日数の経過と共に①いつどんな問題が起こるか？何が必要か？②軽減するためにはどうするか？何をすべきか？③出来る事、出来ない事にわける。と言うようなことを行いました。この演習に関しては、普段なかなか深く検討する機会の少ない災害に関して、より具体的な対策やポイントをイメージできる演習でした。

参加者からも「災害が起きた時、何をするのか…時間を追って考えてみたことはありませんでした。演習をしていく中で、災害が起きた時に様々と大変なことが起こるんだなあと感じかされました。きちんと対応方法を考えておかないと、対応の遅れによる二次災害が出てくることが分かりました。」「着衣着火した場合の対応が一番印象に残った。具体的な災害時の対応について、どうすれば最小限の被害に抑えられるか、理屈がわかるとより適切に対応できると感じた。防災訓練についても火災の場合を設定しての訓練を行っているが、地震を設定しての訓練も行う必要があると反省した。また、被災した場合の対応についても真剣に考えなければと思った。」「いつ災害がおこるか分からないこの国。先生の講義で、「災害後、壊れてから悩むより、壊れないようにどうするか、が大事。」と学びました。非常事態時、グループホーム、家族、バックアップ施設とどのように連絡を取ることが大事。今回の演習のように、災害像・発生の時間帯をシュミレーションすることで、想像力を鍛えることができ、実際に災害が起こった時に行動につなげていけるものと（何も考えずに直面するよりは）感じました。」などの声が聞かれました。

### ～研修の手法を学ぼう（インシデントプロセス法）～

研修の手法の一つとして、「インシデントプロセス法」を学びました。この講義に関しては、本来この時間ではとても収まる内容のものではなく、参加者の方も大変苦勞をしていました。しかし、参加者の方からは「実際にやってみてむずかしそうでしたが、これは「使える技法だ」と思いました。職員で一回やってみようと思います」「地域に戻って実践していきたいと感じる内容でしたとても有意義な研修でした。「気づくこと」を具体的に演習で行い、また資料もわかりやすかったです。今後の自分の仕事に役立てたいと思います。」「この方法は、世話人一人一人が追い込まれた立場に置かれたいめのとても良い方法だと思いました。冷静に問題に対応していくことができ、個人的に批判されることも批判することもなく、問題に対応していけると思いました」などの声が聞かれました。

参考) インシデントプロセス法・・・とは

インシデントプロセス法は、従来の「問題発見型」であるケース検討会議でのケースの分析に中心をおいた会議とは異なり、インシデント（起こるべくして起こった出来事）という事実の発見（気づき）とその対応の工夫に重点をおいた「問題解決型」の検討法です。

・司会＋7～8人の参加者が適当

①プレゼンターが、問題にしたい場面での関わりを具体的に提示します。司会者はメンバー全員がその場面を具体的にイメージできる様に、また、問題にしたいポイントを絞り込むために司会者が質問をします。

②参加者は、提示された場面について、自分ならどう関わるかを自分の言葉で、直感的に浮かんだ印象・対応策・その理由を具体的に書き込みます。

③コピーして全員に配布し発表します。このとき司会者は印象・対応策・理由について



出来るだけ具体的になるよう質問をし、どうしてそのように考えたか整理（気付くよう）を促します。

④必要な情報をプレゼンターから収集します。

⑤修正をしたいと思ったら、修正案と修正の理由を具体的に書き、感想も一緒に書きます。その後、コピーして再度発表します。

司会者は③と同じように進行します。

プレゼンターはここで今ならどう関わるか発表します。

⑥参加者・司会はインシデントに参加して感じたこと・思ったことなどの感想を述べて終了します。

その他、各地域での具体的な研修プログラムの作成や、各地の情報交換など本当に盛りだくさんの内容での合宿となりました。今回の限られた時間の中で、テキストの内容も含めてすべてをお伝えしていくことは本当に困難でした。しかし、参加者の方々は世話人研修のあり方の問題意識を改めて持っていただくと共に、これをきっかけにそれぞれの地域に戻って研修の実践や、ネットワーク作りに取り組んで行こうと感じていただきました。早速、研修計画が作られてきている地域もあります。このような輪を今後は全国各地に広めて行ければ、少しでも世話人さんの資質の向上や、孤独感の解消につながっていくと考えます。

## (2) コアスタッフ研修報告 (西日本ブロック)

酒井 比呂志 (日本グループホーム学会運営委員)

2007年9月16日、17日に千葉県で行われたコアスタッフ研修 (東日本ブロック) に引き続き、11月23日、24日と岡山県でコアスタッフ研修 (西日本ブロック) が開催されました。

研修を企画するにあたっての問題意識は東日本ブロックと同様で、小域での研修を考えていった場合に、講師の問題なども含めて人材の確保が難しいということ。ネットワークの構築も含めて誰かきっかけになるような人がいないといけないということです。このような問題意識を持って、地域でコアとなる人材を育成するという目的を明確にして岡山で一泊二日の研修合宿を行いました。

西日本ブロックとはいえ、余りに広すぎるので今回は取り敢えず、近畿地方、中国地方、四国地方にしぼり、三重県、大阪府、兵庫県、京都府、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、の11都道府県よりそれぞれ数名ずつ、今後各地域において研修に取り組んでいただだけそうな方、40名の方に集まっていただきました。

事前調査を行ったところ、今回参加した方の地方で世話人研修が行われているところは半分程度、しかし頻度は年に一回程度という回答が多かったです。同一法人での研修が多く、他法人との交流などの機会に関しては三分の一程度でした。これは前回、千葉での回答よりは他法人との交流はあるが、東日本ブロックより活発であるとはいえない程度ですし、他の理由もありそうです。(法人規模が比較的小さい、グループホーム等の地域移行が比較的進んでいないので世話人が少ない等)

兵庫県などは育成会が世話人研修を毎年一回行っていますし、知的障害者福祉協会も独自の世話人研修を行っているようで、また、神戸市には精神障害者のグループホームの世話人研修会があるようです。

今回、コアスタッフ研修が行われた岡山県では年一回、知的障害者福祉協会の行う世話人研修会があり、併せて入居者交流会も開催されるようです。このように法人の枠を越えた研修会も一部ではあるものの、しかし、ほとんどの地域ではそのようなものがないため、運営者が自主的に世話人さんに対しての研修を行っていたりというのが現状のようです。

<スケジュール>

11月23日 (金)

時 間	内 容
13:00	・代表あいさつ ・合宿のオリエンテーション ・研修を始める前に

13:30～ 14:30	・テキストの説明
14:30～ 18:00	グループホームと地域防災に関する講義
18:00	<夕食>
19:00～ 21:00	・各地域に分かれての防災シナリオを具体的に作ってみる演習

11月24日（土）

時 間	内 容
7:00～ 8:30	<朝食>
9:00～ 13:00	研修の手法を学ぼう（インシデントプロセス法）
13:00	<昼食>
14:00～	・各地域の研修モデルの作成 ・発表

### ～テキストの活用方法について～

出来上がったテキストの説明と活用方法についての話を行いました。テキスト（援助のポイント）の中でも大事な部分に関する要点と世話人さんにどのように伝えていくかなどの講義を行いました。テキスト詳細版についても援助のポイントと併せての利用方法などの提案を行いました。

### ～グループホームと地域防災について～

千葉の東日本ブロック研修でも御講演いただいた、神戸大学の西一喜先生に再び御登壇いただきました。午後からの講義に関しては迫力の火災実験をビデオ映像にした資料とともにご講義いただきました。

防火カーテン等の製品については実験映像で見ると、多少高価であっても必要なだと納得させられる機会になったように思います。

火災に関する講義は特に福祉施設の火災事例を取り上げていただき、地震に関しては中越地震と中越沖地震の調査の報告も交えた話をさせていただきました。アンケートからも「防災マニュアルを作っていないが、早急に作成し今回の講義を参考にしたい。」とか「着衣着火した時の対処方法等は入居者さんにも出来るので伝えていきたい。」あるいは「日頃より、何ができるか、何をしておくべきか等を考えておくことが大切だと強く感じ、また考えさ

せられました。」また、「チェックリストを今後活用できると思いました。同時に、普段かわっているケアホームでは防災に関する意識がほとんどない（そういうことを助言できる人がいなかった）ので、世話人さんをはじめ、運営者側にも伝えていく場を持つ予定です。等の感想が寄せられています。

また、改正消防法の解説等は、「GH を開設しようとしたところ、施設扱いとなるためスプリンクラーの設置等を指摘された。細かい法令等を良く知っておくことも大切なのだと思います。」というような感想もあり、具体的で実用的な知識として有用な講義だったように思います。

夕食後の防災演習に関しては、防災対策ということで、地震と火災のグループに分かれて時間・日数の経過と共に、①いつどんな問題が起きるか？何が必要か？②被害などの軽減をするためにはどうするか？何を優先してすべきか？③できること、できないことにわかる。というような、午後の講義から学んだ事を応用して行いました。

具体的な災害シナリオに基づいたグループワークは参加者各個人の関わるグループホーム等で実際に災害が起こった想定で行われた事もあり、リアリティを持って参加者に訴えかける効果もあったように思います。アンケートからも「世話人さんと防災について改めて話し合う材料になりました。今後定期的な訓練を含め、必要な設備の充実、連絡系統の見直し等を進める」、「グループホームでの勤務は一人ということが多く、緊急時の対応・判断が大きく結果を左右します。中略、普段から緊急時には、どういう動きをすることが必要か、地域の中ではどこに避難するかなど世話人さんにもきちんと意識を持ってもらうことを意識付けすることの必要性を感じました。」等の感想が寄せられました。

普段からの地域との繋がりや地域の方に「いざという時」に協力していただける関係を作っておく大切さは大西先生のメッセージからも伝わったと思います。参加者各自のグループホーム等での防災計画や組織内連絡体制の見直しを迫る程の効果的な演習だったのではなかったかと思います。

## ～研修の手法を学ぼう（インシデントプロセス法）～

千葉の東日本ブロック研修でも行った経験から、参加者からの御意見を取り入れ、少し講義の順番を入れ替えました。この講義に関しては、本来この時間ではとても収まる内容のものではないのですが、始めに講師の山田さんからインシデントプロセス法の基本的な考え方の講義をいただいた後、モデル的に一つの班でインシデントプロセス法を実際に進めて行き、山田さんが細かいアドバイスを行う。というような感じで、他の参加者は周りからその進め方や考え方を参考にしました。その後、各班に分かれ研修を行う事になりました。先に手法の実際と進め方を解説付きで見ることが出来た為か、会場からも東日本ブロック研修の時よりは不安や解らないといった声は少なかったように思いました。

参加者からは「正直なところ、目からうろこの演習法でした。自分たちが施設内で日頃

行っているケース会のあり方の欠点も再認識しました。」「これまでのケース会議とは違った問題解決法で、当グループホームでの色々な問題が複雑化してる中、この理念と実践は現場では有効な方法だと感じました。この方法を用いて世話人さんの意識の向上を図る上でもこうした実践の積み重ねは大切だと思いました。」

「この手法を使って世話人さんの研修ができると、意欲を高めたり、充実感が得られたりと効果が大きいと思いました。その前に、演習を受けた私たちがこの手法を使った会議に慣れる必要があるように思います。」「事実の発見（気づき）とその対応の工夫に重点を置くという手法に共感を覚えます。中々実施している全ての検討会の中で上手く機能させていくことは難しい部分もありますが、今後意識して検討会に取り入れていければと考えています。」等、この手法の難しさはあるものの、この手法への評価や共感度は高く、前向きに取り入れて行こうと言う感想が多かった。

## ～各地域の研修モデル作成～

<各地域での課題検討・研修計画づくり>

鳥取県

- ・20年秋に世話人交流会を予定し、島根県とも合同研修企画を立てる予定。（山陰 GH 等スタッフ会）
- ・平成19年12月13日に山陰地区出席者が集まり、今後の取り組みについて話し合った。平成20年3月を目標に島根県大学の先生を招聘しての研修会を計画した。この研修会は、経験者（管理者）を対象にしている。来年度は、島根県との合同の研修会の開催は難しい面があるため、鳥取県としては、県の担当者と相談しながら9月か10月を目標に準備していく。

島根県

- ・鳥取県と合同で何かできそうになったことがうれしい進歩です。

高知県

- ・実施時期：6月、実施規模：県全体・1回、地域（東、中央、西）各1回、研修内容：防災対策（世話人対象）、スキルアップ研修、情報公開、自立支援法の内容把握

徳島県

- ・世話人さんの確保及び報酬の改善が急務ではないか。

三重県

- ・三重県は9福祉圏域があるので、県内一斉に始めるのは難しいですが、今回参加した2圏域から研修を始めていくことは可能かと思いました。計画づくりも具体的な話し合いができたように思います。

兵庫県

- ・19年度3月に兵庫県下で研修会を企画している。対象はグループホームのサービス管理責任者や管理者を予定。

#### 愛媛県

・地域をどの程度の範囲にするかということもあるが、とりあえず自分の周辺の状況や地域の状況をまず知る必要があるように思う。

<全体を通して、今後の各地での研修につなげられるか> (アンケート回答者一般参加者40名中12名)

#### 鳥取県

- ・鳥取県の意図が今一つ分かりにくいですが、補助金予算化の方向とのこと。
- ・当面の目標は話し合いの環境づくりに主眼をおくのか。その中で、今後の話し合いの持ち方について、工夫の余地があるとすれば取り入れていくことになる。

#### 島根県

- ・コミュニケーション能力を身につけることができるようなワークショップができると世話人のみならず、ためになる。

#### 高知県

- ・防災対策は、研修の中でも一番に取り上げていかなければいけないと思います。
- ・近隣施設の担当者たちと連絡を密にして、取り組みをしていかなければと考えていますが、グループホーム学会や県のバックアップも重要になってくると思います。

#### 徳島県

- ・一泊研修会の実施は職員が少ないため困難と思われる。どこの事業所でもゆとりがない。しかし研修は必要であり事業所の創意と工夫により計画的に実施する事が望ましい。

#### 三重県

- ・各地の現状を聞くことができ参考になりました。防災に関する講義、演習方法は今後の研修に活用できるので上手に使いたいです。
- ・いきなり大々的に取り組みを進めていくことは困難な気がします。パートを中心に運営しているホームが多く、そこまでのことを望まない世話人がいる現実もあります。また業務の合間をぬって、誰が中心になって継続的に研修を進めていくのか不明確である点も課題の一つになる。ただし、研修という名目ではなく気軽に参加出来る交流会的な集まりから光が射し進展していく可能性はあるように感じます。近隣に他事業所のホームがほとんどない点も課題の一つです。

#### 兵庫県

- ・グループホーム会計が苦しい中、研修に計画的には行けない状況が慢性化していましたが、今回費用的にはありがたい機会を提供していただきました。が、各地の研修にどのようにつなげていくかについては現時点ではイメージが固まっていません。

#### 愛媛県

- ・まず、自分のところでは徐々に今回の研修を活用したいと思っている。

### (3) 全国コアスタッフ研修報告

在原理恵（学会事務局）

2007年度、東日本ブロック（季刊誌15号で報告）と西日本ブロックに分けて行ってきたコアスタッフ研修ですが、2月10日11日には3回目を行いました。これはすでに1回目の研修に参加済みの方を対象にしたもので、その後の各地での研修実施状況と反省などをもちより検討すること、また、各地の状況に応じて実施できるように具体的な研修方法を学ぶことを目的としました。全国14県（政令市含む）から34の方が参加してくださいました。

今回のコアスタッフ合宿では、講師の話聞くだけでなく、世話人が能動的に参加する「参加型研修」を実際に企画実施していくために役立つよう、次のような内容にしました。

<スケジュール>

[1日目]

時間	内容
13:30～ ～15:30	「各地の研修報告・情報交換」
15:45～ ～18:30	「世話人研修の方法について考えよう」 ・テーマや方法を選び、グループ毎に演習を行う

[2日目]

9:00～ ～12:00	「支援者が成長するための原則を伝える方法」
13:00～ ～15:00	「支援者が成長するための原則を伝える方法」
～16:00	振り返り・まとめ・アンケート記入

#### ～ 各地の研修報告 ～

研修をすでに実施したところ、企画済みでこれから実施するところ、これから世話人同士のつながりを作り始めようとするところなど様々でした。内容としては、前回のコアスタッフ研修を受けて、防災対策に関する内容と、当学会が発行した「グループホーム援助のポイント」を使ったところが多かったようです。ただ、大半の地域が講師を招いての研

修で、参加者が能動的に参加する研修にはなっていなかったようです。これは1回目のコアスタッフ研修の反省でもあります。話を聞くだけだったり、講師に任せきりの研修ではなく、研修企画者が身近な世話人の状況に応じた「参加型研修」を行うことが必要ではないでしょうか。その方法を、学会として提案し、コアスタッフや多くの方々に伝えていかねばならないことを確認しました。また、各地の研修の状況を伝え合い、情報交換をし、互いに各地のあり方から学べる機会が必要であることも確認しました。

### ～ 世話人研修の方法について考えよう ～

この時間は、2つのテーマ（自立について、家族関係について）と3つの具体的な研修方法（自由に話し合う、事例を使った書き込み法、ロールプレイ）を用意し、小グループに分かれて実際に模擬研修を行いました。司会役、参加者役のどちらも体験し、振り返りの時間もとったことで、様々な気づきがあったようです。テーマ設定の仕方、準備するもの、進め方の細かい配慮、それぞれの研修方法の長所と短所…などなど。

これまでは研修テーマや研修の方法を何となく決めることが多かったかもしれませんが、この時間で得られた収穫の1つは、「研修方法はその研修の目的に応じて決める」ということだったのではないのでしょうか。例えば、「入居者の気持ちを考えることが目的ならロールプレイが有効」、「参加者全員が平等に意見を出せることを重視するなら、書き込み方式が有効」などの感想もありました。

### ～ 支援者が成長するための原則を伝える方法 ～

2日目は、神奈川県立保健福祉大学の川村隆彦先生を講師にお迎えし、研修の具体的な方法について、先生の実演と参加型の演習によって学びました。研修を企画実施する際のヒントをたくさん教えていただきました。例えば、伝えたいこと・考えてほしいことは1つから数個までに絞る（たくさん詰め込みすぎない）、1つのテーマを扱う時間は30分程度で区切る、参加者の意識を集めるとともに研修後に記憶に残るような印象的な小道具を使う、具体的な例を示して参加者が自分に引き付けて考えられるようにする、参加者が自由に意見を言いやすい物理的状況をつくる（グループの人数や机、椅子の配置など）、最後にその時間で学んだことをしっかり確認する、などなど。

先生が強調したことは、参加者が日々の仕事上の悩みを打ち明けあって共有したり、時には愚痴を言い合うことで元気が出たりすることとても大事なことだが、それだけで終わるのではなく、何か1つでも、大事なことに気づいたり、学びあったという感覚を得ることで、より有意義で前向きな研修になるということだったと思います。

### ～ アンケート結果から ～

コアスタッフ研修の参加者には毎回アンケートを取っていますが、この回は2回目の参加者だったこともあってか、「実践していけそう」な感触をもったという感想が多く見られ



ました。参加型の研修はグループの進行などの司会者の力量が問われる場面も多く、そのことを不安に感じている方も少なくありません。しかし、回数を重ねることと、一つ一つの研修から学んでいくことで進行するスタッフの力もついてくるに違いありません。「今回の研修を各地の研修実施につなげられるか？」というアンケートの質問には、「つなげられる → つなげて行かなければいけない！」という力強い回答もあり、このコアスタッフ研修を実施した私たちもとても勇気づけられました。

## 2. 各地の研修

### (1) 概要

今年度、学会では平成19年度障害者保健福祉推進事業等補助金を受けて、コアスタッフ研修を受講した方の地域での研修への補助を行いました。その各地の研修一覧は、以下の通りです。

#### 【北海道】

[開催場所] 北海道留萌市

[開催日時] 平成20年2月3日（日曜日）AM10:00～PM3:00

[参加人数] 32名

[内容]

- ・講演『グループホーム援助のポイント』
- ・グループ討議 グループ1『世話人の業務内容について』  
グループ2『共同生活の悩み』  
グループ3『地域・他機関（職場・通所施設等）との関わり』

#### 【福島】

[期 日] 平成19年12月16日(日)

[会 場] 郡山ユラックス熱海

[参加者]

グループホーム・ケアホーム・等の世話人、サービス管理責任者、支援スタッフなど

[内 容]

- ・講 演「グループホームって何」
- ・グループワーク「世話人・支援者として困っていること、悩んでいること」
- ・グループワークの発表、まとめ

#### 【群馬：2回実施】

①[日時] 平成19年11月5日（月） 10:00～15:00

[場所] 群馬県社会福祉総合センター B01会議室

[内容] 講演 「GHと地域防災」

テーマ別ミニ学習会① 大地震だ！どうする？

テーマ別ミニ学習会② 火災対策～知識とその心構え～

テーマ別グループワーク・防災についてどんな事が不安ですか

[参加者数] 福祉協会関係 51名（施設長1名・寮長1名・サービス管理責任者2名・世話人47名） NPO法人関係 8名 計59名

②[日時]平成19年12月14日(金) 10:00~14:30

[場所]群馬県社会福祉総合センター 7階701会議室

[内容]

- ・講演 「グループホーム援助のポイント」から
  1. 地域で暮らすということ
  2. グループホームとは
- ・質疑応答

[参加者]37名(すべて世話人)

**【横浜地区：地域ごとに4回実施】**

南部(11/26)・東部(12/17)・西部(1/21)・北部(1/31)

[内容]

1. 室津茂美さんからテキスト「グループホーム援助のポイント」の説明
2. 室津滋樹さん講演「グループホームが大切にしてきたこと」
3. 横堀(コーディネーター)よりテキストの説明と、内容を大雑把に説明
4. テキストを受けて、ディスカッション  
普段ホームでどんな援助をしていますか？

[のべ参加人数]

第1回南部 15名、第2回東部 15名、第3回西部 12名、第4回北部 13名、  
講師・コーディネーター延べ6名。 総計 60名の参加。

**【神奈川県】**

〈日時〉平成20年2月27日(水) 10:15~15:15

〈場所〉愛名やまゆり園 体育館

〈対象者〉厚木愛甲地区の世話人、生活支援員、サービス管理責任者など

〈参加者〉44名(講演のみ10名、終日参加34名)

〈内容〉

- ・講演演題：「少ないお金 大事に使って広がる暮らし 一知的障がいの方の金銭トラブルの防止とお金の管理を支えるために」
- ・インシデントプロセス法により、事例の答えを導き出すのではなく参加者個々の「気付き」を大切に日々の業務に生かす。

**【長野】**

[期日]:2007.12.4(火) 13:00~15:30

[場所]:長野県伊那市福祉まちづくりセンター

[講師]：神戸大学大学院准教授 大西一嘉先生

[演題]：「ワーッ 地震！ 火事だっ！ あなたならどうする？

——グループホームスタッフは何をすべきか——」

[出席者]：33人（世話人さん23人、バックアップ職員2人、  
デイサービスセンター2人、行政2人、支援センター4人）

### 【三重】

[開催期日] 平成20年3月21日（金）

[会場] 三重県人権センター

[内容]

10：30～ 講演 テーマ「グループホーム及びケアホームの防災対策」

13：00～ 世話人さんからの発題

14：00～ 分散会（防災対策・課題や困りごと等の意見交換）

Aグループ（20名）

Bグループ（20名）

Cグループ（21名）

[参加者数] 61名

[参加者職種] 世話人（34人）、GH担当支援員（4人）、支援員（17人）、施設長（6人）

### 【兵庫】

[日時] 2008年3月22日（土）10時～15時

[場所] 兵庫県西宮市勤労会館 第二会議室

[内容]

- ・講演「兵庫県の障害福祉政策について」
- ・講義「中央情勢等からグループホームの見通しについて」
- ・報告「兵庫県下のGH・CHの動向」
- ・討議「障害種別に分かれて課題等を討議」
- ・全体発表

[参加者] 精神関係者 3名（3名欠席） 知的関係者 30名（一名欠席） 身体関係者 3名

### 【山陰（鳥取・島根）】

[日時] 平成20年3月5日（水）10：00～13：00

[場所] いきいきプラザ島根 4F403号室

[参加者] 56名

[内容]

- ・山陰のグループホーム調査報告

- 講演 島根大学法文学部福祉社会教室 准教授 加川光浩氏
- ・ 障害者の支援をする環境の活用と作り方
- 講演 島根大学法文学部福祉社会教室 講師 京俊輔氏
- ・ 意見交換

**【徳島】**

[日 時] 平成20年3月12日(水) 13:00～

[参加人数] 36名

[参加者職種] 「施設長」「サービス管理責任者」「GH世話人」

[研修内容] 障害者の消費者トラブルについての講演

講師：徳島県消費者情報センター 消費生活相談員 関本美佐子氏  
情報交換

## (2) 各地の研修報告

### ①北海道

- 開催場所 北海道留萌市
- 開催日時 平成 20 年 2 月 3 日（日曜日）AM10:00～PM3:00
- 参加人数 32 名
- 開催目的 グループホームは、街の中で普通に暮らしをしたいと言う障がいのある人たちの思いからできました。その思いが尊重されるためにはどのような事を考えていけば良いのでしょうか、グループホームの生活の主体は入居者です。入居者のみなさんが希望している暮らしを実現できるグループホームにしていくために、グループホームの理念を理解し、より良い援助を行うための知識や技術を身につけ、又支援の主流でもある世話人さんが孤立することなく、話し合える、相談出来る仲間作りの一助となることを目的とする。
- 開催概要

講演 1	『グループホーム援助のポイント』 講師 松泉学院 光増 昌久 氏（グループホーム学会副代表）
グループ討議	グループ 1 『世話人の業務内容について』 ・勤務時間内で仕事が終わらない ・ゆっくり入居者の人と接する時間がない ・入居者の人との接し方 等等
	グループ 2 『共同生活の悩み』 ・入居者同士のトラブルの解決方法 ・仕事の分担などについて ・ルールの決め方 等等
	グループ 3 『地域・他機関（職場・通所施設等）との関わり（連携）』 ・地域（町内会）の人たちの理解 ・職場との連携（連絡体制）について 等等
	グループ 4 『入居者との関係づくりについて』 ・入居者の方の障がいと性格について ・入居者の方との付き合いかた ・入居者個々の生活状況について 等等

## ➤ 研修を振り返って

世話人アンケートより

- ・グループホーム援助のポイントの冊子はもらったが、講演などを通して説明してもらうことでより一層理解ができよかった。
- ・研修会には何回か参加したが、グループ討議などの場面で自分の悩みと同じ悩みを他の世話人さんも持っていることがわかり参考になった。
- ・他地域の世話人さんと交流できてよかった。
- ・又明日から新たな気持ちで頑張れる気がした。
- ・本人を中に入れた本人に優しい話し合いを実践していきます。
- ・今後もこういう機会（他の世話人さんとの話し合い）があつていいと思った。
- ・今まで同じ地域の世話人さんたちとは交流、研修等を行なってきましたが、他地域の世話人さんとも交流が持てよかったです。
- ・今後もこのような研修は続けてほしいとの圧倒的な意見をもらいました。
- ・研修会を企画してそれぞれの地域に発送しましたが、世話人研修を必要と思っている事業所とさほど重要性を感じていない地域など温度差があることを改めて実感しました。
- ・参加している世話人さんを見ていて一生懸命している世話人さんほど煮詰まっていること、視点の方向を導き出すきっかけなどを求めていることを感じました。

最後に世話人さんより

- ・次回は具体的なケースをもとにグループ討議をしてほしい
- ・本人達の生活費、利用料など身近な問題を取り上げてほしい
- ・グループ討議は大変よいので続けてほしい
- ・余暇など生活の広がりについて参考意見を聞きたい
- ・利用者さんの介助の度合い別にグループ討議を試みたい
- ・疾病（通院など）や金銭管理なども勉強したい

と沢山の意見をもらい、是非来年度も実施していきたいと思います。



## ② 福島

### (世話人アンケート)

#### 1、午前の講演の感想をお聞かせ下さい。

- ・ 夢を持って暮らせるように手助けをするよう心がけていきたい。
- ・ 自立を目指している方もいるので利用者の力を引き出せるように支援ばかりではなく、引いて見守ることの大切さを感じましたので今日参加して良かったと思います。
- ・ 大変参考になり有意義なお話でした。
- ・ 山田先生のお話、とても分かりやすく聞かせていただきました。おつぼね様、こつぼね様、先生は現場にいたのでよく分かっていると思いました。私も、自分の価値観を目指すところとして利用者さんだけでなく世話人さんにも押付けていたような気がし、反省したいです。これからも利用者さんが自分のしたいことが出来るよう支援していきたいです。(その時は引く支援で)
- ・ とてもいい話でした。
- ・ 講演のお話を聞かせていただいて自分達の GH の利用者に置き換えてお話を聞き、世話人の役割は給食のお婆さんだけではいけない事が分かりました。
- ・ とても分かりやすく現実的で楽しかったです。
- ・ 世話人としての資質について大事な話を重い気持ちにさせないで気持ちを楽にさせるような話にしており良かったです。
- ・ 改めて考えさせられる部分があり、これからもがんばる気になりました。
- ・ 分かりやすく、ユーモアのあるお話でした。ありがとうございました。
- ・ 初めての参加なので講演を聞いて良かった。マンネリ化しやっていたと思う。
- ・ やさしい語り口調で大変リラックスして聞くことが出来ました。常に感じ思っていることが多かったので少々の安心感を持ちました。
- ・ 分かりやすい内容でよかったです。利用者が住みよい環境作りが第一との話が特に興味がありました。
- ・ 世話人はこうあるべきなのだということが理解できたように思います。
- ・ 講演の話そのものが大変おもしろく話され良く理解できる話でした。今後の世話人としての参考に大いに役立てさせたく存じます。
- ・ 事例をふまえての講演が良かったです。利用者とのかかわりに不安があったが、解消に連なる話を聞くことが出来た。「初心」に戻ることが出来た。
- ・ 先生のお話が大変勉強になりました。これを機会に又がんばります。
- ・ お名前は知っていましたが、分かりやすく話をして頂き理解することが出来ました。初心に戻ることができ良かったと思います。
- ・ 冗談をまじえての講演でやわらかい講演で分かりやすかったです。



- ・ 内容が分かりやすく大変良かった。
- ・ 世話人は一人でしている仕事なので自分でかかえてしまう事が多いので今日の講演を聞いてとても役に立ちました。
- ・ 山田先生の講演は楽しく聞くことができ、またおもしろく聞かされ今後の仕事に役立ちました。
- ・ 山田先生の優しい話しかけ、言葉に、自分も優しくなれそうな気持ちになった。
- ・ 利用者も世話人も、一人だけががんばりすぎないこと。これ以上頑張れないから、・・・。
- ・ 勉強になる話しが聞けました。気持ちが明るくなりました。
- ・ 山田さん話が聞けてよかった。
- ・ 目からうろこでした。
- ・ 分かりやすく、とても良かったです。これからの仕事に役立てていきたい。
- ・ とても分かりやすく楽しくてよかったと思います。
- ・ 世話人として話を聞いていて、胸にシャキッとくる話ありました。耳が痛かったです。
- ・ 忘れていたことを気づかされた。「本人中心計画」を利用していきたい。本人に決めさせ、本人に責任をもってもらおうという考え方は日々悩んでいる（本人の意思のうつろいにふりまわされる）ことの解決策になるかなと思った。
- ・ 立ち上がったばかりなのでまだまだ勉強するところがあり、甘ちゃんだったというところでした。
- ・ プラスのみを望むのではなく、マイナスに向かっても心配ないとの言葉に安堵しました。

## 2、午後のグループワークの感想をお聞かせ下さい

- ・ 色々なホームのお話が聞くことができ勉強になりました。
- ・ 他の施設の世話人さんの話が聞けて良かったです。
- ・ 同じような悩みがどこにでもあることを知り、少し気が楽になりました。
- ・ 世話人として共通・共感が持て大変勉強になりました。
- ・ 年に1回では物足りなく思いますが時間の許す限りこの会を設定して頂きたいです。
- ・ 色々なGHの方々のお話が聞けて大変参考になりました。
- ・ 他のグループホームの話しで朝、お弁当を作ってやることや一人で仕事をし休みの時は弁当屋に届けてもらったりする事を聞き、少し驚きました。
- ・ 昨年の給料の半分以下になってしまい、仕事の内容は全く変わりにくくても仕事に専念できない感じがします。利用者が給料を貰ってくる全額と私の貰う全額がほぼ同額なのを見て矛盾を感じています。彼女は大きい会社に勤めているので福利厚生がきちんとしていて羨ましいと思いました。

- ・ 活発な意見交換が出来大変良かったです。
- ・ 他の世話人との話ができ良かったが、時間が足りなかったようだ。
- ・ 初めての経験で、とても為になりました。
- ・ なかなか他の GH の方々の話を聞き、難しいなと思うと共に、今後のかかわりをどうしたら良いのかまだまだ勉強不足を考えさせられました。
- ・ それぞれのグループホームによって違いがあることが分かった。
- ・ 各グループホームの意見交換楽しかったです。
- ・ 私の GH の利用者は自分のことが出来る手のかからない利用者で、私はもっとしっかりと利用者向き合って話し合いたいと思いました。
- ・ 同じグループホームでも利用者さんの接し方など違いがある事が分かりました。
- ・ バックアップ施設の方がいない所での自由な発言ができてよかったのではないかと思います。私の事業所、他の事業所と違いがあったのでこれから参考にしたいと思います。
- ・ 同じような意見が出、世話人として共通点が感じられ県内研修会も良いと思います。
- ・ 共感することがほとんどでした。
- ・ 時間がもう少し欲しかった。
- ・ いろんな施設の方たちのお話を聞かせて頂いて勉強になり、午後のグループホームで心に残った話と言うのが、「世話人は利用者の代弁者である」という言葉、忘れずに頑張っていきたいと思います。
- ・ 他のグループホームのお話が聞けて、自分ばかりではなく考えこまず相談することが良いことに安心しました。
- ・ 共通点が多く勉強になり、又こんな機会があれば参加したいと思います。
- ・ 各ホームの色々な話が聞けてとても参考になりました。
- ・ とこのホームでも利用者さんで悩んでいる事は同じ話ですが、皆さん頑張っていきましょう。
- ・ わたしたちのグループは色々な話が出てきてとても楽しかったです。
- ・ みんな同じ悩みをかかえている。その中で地域住民の一人として楽しくいきたいと楽しさを見つけていることが分かりました。
- ・ 世話人さんはみんな大変だということが分かりました。
- ・ 皆さんのいろいろな意見が聞けてよかったです。
- ・ いろいろな問題があり、大変だと感じました。
- ・ 初めてお会いした世話人さんと利用者に対する愚痴こぼしでした。すっきりしました。色々研修会（世話人）に出席するが世話人に対する研修会ではなかった。今回は本当に世話人研修会。とても良かったです。続けて欲しいです。
- ・ 一人ひとりの意見を聞きとても勉強になりました。

### 3、今後、取り上げて欲しいテーマ・内容などがありましたらお聞かせ下さい

- ・ 世話人は利用者とどうかかわるのか。
- ・ 対人関係のコミュニケーションをどう対処すればよいのか。
- ・ 利用者とのかかわりどこまでかかわって良いのか、個人個人のとのかかわりについて。
- ・ 社会保険とか給料を上げて欲しいです。6年間1度も上がってません。
- ・ 世話人さん協会が持続し強くなって行って欲しいです。
- ・ 世話人の位置づけはどこなのか。
- ・ グループホームの交流会
- ・ 世話人さん主体（何人かの世話人さんに話してもらう）の現場の話を知りたい。いろんな事例に対する具体的な解決策をねる。
- ・ 世話人さんやヘルパーは本当に厳しく孤独な仕事です。（利用者さんからも職員からも理解されない部分もある）もっと話し合える場があるといいと思います。
- ・ 世話人だけの会合場が欲しい。
- ・ 6ヶ所の意見が聞けてとても良かった。

#### （職員アンケート）

##### 1、午前の講演の感想をお聞かせ下さい

- ・ 大変よく分かりやすいお話でした。自分が今日までグループホーム支援に関わって来た事を話された様で、また新たな気持ちで関わっていけるかなと思われました。
- ・ 気づき、自立にはフェイディングが大切であること。世話人の為のグループホーム援助ポイントが良く分かったし理解できた。
- ・ 今後、どんどん地域生活移行を進めていく中で気づかされた事がたくさんあった。（利用者本位で支援すること、もっと自分達の事を行政に届けること等の大切さ）しかしながら、やはり地域格差というものを感じてしまった。もっと頑張らねばという思いも出た。
- ・ 「地域生活への移行という意味」を改めて考えました。「支えの信条」参考になりました。
- ・ 障害程度区分でその人のサービスが決まるのは人権侵害ではないかという意見にその通だと思えます。本人のやりたい事を尊重し支援計画を作成する。本人にラフスケッチをしてもらうということも納得です。
- ・ 長い間仕事をしていて日常がマンネリ化していたことに気づかされた面がありました。
- ・ 基本的な事の意識など再確認できた内容でした。個別支援計画、本人さんの思いを日々関わっている世話人さんにも交えて作成していくこと・・・連携をとっている中でもきちんと本人さんを中心に関係者で作成することの必要性を再確認できた。

- ・ 具体的な実践の中からのお話だったので大変参考になりました。
- ・ 分かりやすく深くまでの話もあり、大変参考になりましたが、理想的すぎる部分も感じました。現場の実態を知っている先生なのでもっと現場のドロドロした部分の話も聞きたかったと思います。
- ・ 楽しく分かりやすい話の内容で、世話人の方もよく実感できていたようです。
- ・ 世話人さん、職員に対しての立場を理解してのアドバイスでご指導、心に残るお話でした。どこで生活していても利用者主体を崩さない努力、感性が必要だと感じた。
- ・ まずいつもやっているとマンネリ化してしまい、初心に帰って行うよう考えさせられました。
- ・ 改めて利用者さんの希望にそった生活をするにはどうしたらよいか考えさせられた。
- ・ 利用者の声に耳を傾ける難しさ、こちらの都合で仕事はしてはいけない。
- ・ グループホーム・ケアホームの実態、あり方などを分かりやすく、面白く解説して頂き、勉強になりました。時間があつたらもっと沢山聞きたいと思いました。世話人さんの気持ち、事情が手に取る様に分かりました。また、このような機会をお願いします。
- ・ 世話人に分かりやすく楽しい内容だったと思います。
- ・ 世話人さんの気持ちをよく分かっている方が話してくれてるという安心感がありながら耳を傾けることが出来ました。私も日頃のせわしさに差別的な人間になり、利用者さんに押し付けをやって当然と思ったりしてしまいましたが、この研修でちょっと原点に戻って元気だそうかなと思いました。
- ・ 毎回山田先生のお話を聞き、忘れてしまっていた大事なスピリットがあつたなと気づかされます。
- ・ 分かりやすい説明であつた。原点に戻り頑張りたいとプラス思考でいきたいと思いました。
- ・ とても為になる話が聞けてよかったです。改めて初心にかえり直していかなければならない点が沢山ありました。
- ・ 利用者との1対1で話を（ゆっくりとする）事が少ないこと、感情を共有することが難しい。日常業務に追われている。しかし、初心を忘れずに自分が納得できる仕事をしていきたい。
- ・ もう少し内容の濃い（詳しい）講演だと良かったと思います。改めて利用者主体の大切さを知ることが出来たので良かったです。

## 2、午後のグループワークの感想をお聞かせ下さい。

- ・ 地域によってさまざまな様子が聞けてよかったです。どこのホームでも小遣いなど（特に作業所）不自由な日常を送っている人がいる。暴力、暴言などに悩んでいる世話人等もいるようです。
- ・ 皆さんの各ホームでの大変さを感じました。

- ・ 個別支援計画を見せて欲しい。色々なグループホームがあること。世話人の相談できる場がない。
- ・ それぞれの施設での問題を共有し話し合い、自分では気づけなかった解決法を見出せた。また、「自分たちだけではない」という安心感もあり、もう少し方の力を抜いてやってみようと思えた。
- ・ 世話人さんのグループに入り、聞かせていただきたかった。
- ・ 共通した問題点、またホームによつての違いを知ることが出来ました。時間が足りなかったです。勤務5年になります。このような集会在いつあるかと待ち望んでました。
- ・ 世話人さん、特に夜間支援員の人の仕事の大変さを聞き、しっかりとした体制がとれる報酬にして欲しいと思いました。支える人に十分な支援を！！
- ・ 初めての事で、情報交換が出来てとても良かった。
- ・ スタッフの確保や配置にどのグループホームの方も苦勞されているようです。障がい者自立支援法になってから、経営・管理の面でとても大変になってきています。利用者の立場に立った福祉行政を望みます。
- ・ 大変勉強になりました。いろいろなホームがあり、それぞれの問題が山積みされていることも分かりました。
- ・ 共通の悩みとして世話人さんの確保など、いろいろな話題がとび出し、とても参考になりました。
- ・ あの時間枠では良かったと思う。情報交換が主であったが貴重だったと思います。
- ・ グループホームの方の困っていること、情報交換について色々聞いてよかったです。
- ・ 各事業所の取り組みや問題点が聞いてよかったです。
- ・ 各 GH・CH の世話人さんの大変さを聞きました。世話人さんの確保の難しい状況や賃金の安さ、労働時間等について各ホームもいろいろと大変であるということですね。
- ・ 支援側からの世話人に対する課題、運営面の悩みなど、他事業所の意見が聞け、参考となる部分が多かったが、もう少し時間が取れたらと思う。
- ・ バックアップ施設スタッフの長時間労働、ボランティア精神で成り立っている。GH生活世話人さんの涙ぐましい奉仕があつてようやくなりたっている。GH生活、お金、人材が保障される福祉の現場にならないと本当に危うい状況、やはり税金で保障される事業であつて欲しい。
- ・ スタッフとしての悩みなど聞いてよかったです。
- ・ 情報交換、知り合いが増えとても役立った。
- ・ 各事業所内で課題としてあがっていくこと、いろんな意見が聞いてよかったです。それぞれの事業所での工夫の仕方、課題としてあがっていることに関し、今後どのようにしていけばよいか情報交換が出来たと思う。
- ・ それぞれの事業所で状況は違うのですがやはり、専門的、人的確保が出来ない状況はどこも同じ。法律の中で今後対応していただければと思います。思いだけではパンク

してしまう。

- ・ 仲間で話し合うことの大切さが分かり、この研修が良い勉強の場になりました。
- ・ 全国大会、東北大会などの様な大きな研修会も良いですが、福島だけの研修会も細かい話が聞けてとても良かったです。時間が少し短かったです。
- ・ どのグループホームも同じ様な問題があるし、苦勞していることが分かってよかった。
- ・ 他のホームの状態について知ることが出来たので良かった。

### 3、今後、取り上げて欲しいテーマ・内容などがありましたらお聞かせ下さい

- ・ 施設を出たばかりの利用者さんの対応。これからの世話人のありかた。
- ・ 施設長と施設職員、世話人との連携、関わりについてなど。
- ・ 世話人さんの募集の仕方、研修会のもち方を社協の事業として行って欲しい。
- ・ 継続していくことがまず第一希望です。世話人さんの悩み、抱え込みをストレスとしない為の支援についても配慮したいと思います。全体的に広い内容でしたので専門的な部分も1つずつ勉強してほしいと思います。(資質の向上)
- ・ 世話人さんの労働実態、給料面などの実態が知りたい。
- ・ 世話人さんの確保、教育、身分などについて。
- ・ 圏域での GH・CH 研修、定期で開催できたら良いですね。それも一つの声にして提言までもっていければなお良いです。
- ・ またやってほしい。問題点をとりあげて話し合う。
- ・ 今回は世話人がメインでしたが、他にも支援員や他の職員に対しての研修会もお願いしたいです。
- ・ 今回は支援員だけの出席となりましたが、今後世話人にも出席してもらいたいと思っています。
- ・ 毎回、支えの信条は基本だと思うので取り入れてほしい。
- ・ 世話人さんの悩み、要望を聞く。
- ・ ホーム利用者の老後の対応について。利用者の恋愛について。
- ・ 市町村によってちがう世話人の雇用保障。
- ・ レベルの違いによって物事が出来る人、出来ない人、解る人、解らない人、色々と差が出てきて、利用者から不満も出る。このあたりの対処の仕方を取り上げて欲しい。
- ・ 今後、各地域での研修をしてもらい、ぜひ世話人さんにも聞いてもらいたい。
- ・ 世話人さんの研修の機会、多く設けてもらいたい。

### (実施者反省)

#### 全体の感想

- ・ 世話人からの評価は良かった。「こういう場が今までなかった」とバックアップ施設からも話があった。その法人では、全ての世話人を参加させてくれていた。

- ・ 世話人の悩みを聞く場がなく、その為同じ悩みを持っていてもどのように解決していけるのか、情報がなかった。その情報をまずは聞いた点で今回は良かった。今後は次にどうしていけるのか？と話し合っていくことが必要である。
- ・ 世話人から、研修会後個人的に相談を受けた。今回の研修を通して、相談を出来る相手を知る事が出来てよかったと言われた。
- ・ 取り掛かりの研修としては、アンケートの結果を見る限り良かったのではないかと参加者から、今後必要なものを引き出す事が出来てよかったと思う。
- ・ 午後のファシリテーターの役割が分からなかった。グループホーム学会の研修に出てきた人と、突然頼まれて当日参加した人とでは、何に焦点をあてるのかが分からなかった。主催者側として、今後研修の作り方に問題が残った。
- ・ グループワークのやり方は、研修会としてきちんと持つべきである。ただ話し合うのではなく、画面上に描きながら整理していく事も、分かりやすかったのではないかと声の大きい人・力の強い人に引きずられてしまい、つぶやいている声を引き出す・拾い上げていくファシリテーター側の技量を高める必要性を感じた。

↓

今回は、世話人が今まで発言する場がなかった為、たまっているフラストレーションを爆発させる場としての午後の設定であった。しかし、会場が狭く、隣のグループの声に引きずられた事もあり、今後会場の配慮も必要であると感じた。

- ・ グループワークにおいて、ケアホーム職員とグループホーム職員とがおり、利用している方の状況により、話の接点をもてないところもあった。勤務体系で価値観も異なっているため、今後グループ分けする時点での見直しは必要ではないか？

↓

365日世話人に丸投げの法人もあり、他の世話人がまるで仕事していないかのような雰囲気にもなった。泊まり勤務のあるホームでは独善的にもなりやすい。そのような住み込みであったからこそ、地域での生活が保障できた地域性は長い歴史の中には存在していた。今回、このような話し合いが出来た事で、県内の実態を把握し、検証していく土台にはなれていると思われる。バックアップ施設に対しても、世話人に丸投げであったり、世話人の業務を職員が行っていたり、振り返る機会になれるのではないかと。

- ・ 世話人の中には、バックアップ職員にいじめられていると感じている人もいた。世話人と職員との価値観が乖離している。

↓

基本的な仕事として、世話人に一定のレベルを求めているが、世話人をきちんと見て

いないし、伝える事もしていない。世話人に丸投げするのではなく、本来は利用者も世話人もトータルで支えていくのがバックアップであるはずなのに出来ていない。日々行っていかななくてはいけないことなのに、問題のある時にだけたまに対応しているのみ。そのため、まずはバックアップ職員を育てる事が必要なのではないかと？世話人の研修と共に、バックアップのシステムを作っていく事の、両側面が必要なのではないかと？

- ・ 身障は嫌な時には嫌だと言って出て行けるかもしないが、知的は嫌だと思っても、それを表現し実際に出て行く術を知らない事が多い。施設や在宅よりはグループホームが良い、という理由で来ている。何故ここで暮らしているのかが良く分かっていないから、他にどのような暮らしがあり、考えていけるかが分からない。その点は、丁寧に本人に伝えていけない事であると思う。

↓

身障としては世話人のイメージがないので、どこまでお願いできるのかが分からない。お母さんの延長的な存在にも見える。本来の自立の概念からはグループホームはゴールではないはずなのに、今現在はグループホームを巣立つ事に繋がってはいない。

↓

近くにアパートで1人暮らしをしているなどのロールモデルがないと、実際にイメージする事自体難しくなっている。

↓

身障でもヘルパーと長時間いることで、依存的になってしまう事もある。障がいの差ではなく、長時間いる人間への依存はいつでも課題である。

↓

それらを踏まえて、世話人は入っているのか？バックアップ側でも、ただまかない婦を求めてはいないか、検証が必要である。

- ・ ヘルパーはスポットなので時給を高く設定できるが、世話人は長時間勤務になるのでパート扱い。時給を抑える事になる。ケアホームの方が時給は良い。安い賃金で、人材を育てるシステムが全く出来ていない。そこをどう作り上げていけるのか？

↓

身分保障をどうしていくか？本来は入っていなければならない雇用保険なども、実際には入っていない法人もある。思いだけではやる事は出来ない。ルール作りの上には思いが必要なのではないかと？

- ・ 買い物をボランティアで行っている人が多い。不平不満の温床にもなっている。

↓

制度が始まった頃は、世話してくれるおばちゃん・下宿的存在でよかった。しかし、



障がい重い方の利用が進み、制度も変化してきた中で、現在はグループホームは地域で支える大きな仕組みとなってきた。ただ、グループホームは最高ではないし、最後の場所でもなく次への重要なステップとしての位置で大切である。

#### \* 午前中の講義の感想

- ・ 個人的に興味深い話であった。
- ・ 講義の内容以上に、世話人を持ち上げてくれた事が何よりよかったと思う。
- ・ 世話人が元気になった。研修会を通して表情が変わっていった。自分たちの事を考えてくれている場所があると分かったのだと思う。世話人の業務は個人で抱えてしまうものが多いが、自分ひとりではないのだと分かって帰れたことが今回の成果ではないか？

#### \* 今後に向けて

- ・ 話す場すらなく、このような研修会が必要である事は分かった。今後は、研修に対する意識付けをどうしていくか。
- ・ 世話人としてやれる事・やれない事の区別・仕事の線引きが必要ではないか？利用者に依存させないように、職員以上に口うるさく指導してしまわないように伝えていく為にも、午前中に世話人とはどのような仕事であるのかを伝え、午後は具体的な問題についてどのように考えていくか、またバックアップはどう対応していくか話し合ってはどうか？その際に、インシデントプロセスの手法も有効ではあるが、まずはスタッフだけの研修で、詳しく学ぶ機会が必要。またロールプレイの方がビジュアルに訴えて、世話人にも分かりやすいのではないか？ロールプレイは無意識にその人の地が出るので、見ている側からも分かりやすい。
- ・ そもそもは保健福祉圏域毎に世話人研修を行って欲しいということではあるが、今現在行うのは無理。しばらくは県単位で行い、まずはそれぞれの圏域の核となる人を育てること。その為にも研修会を支えてくれるメンバーを引っ張ってくる事が大切になってくる。
- ・ 来年度からの開催に向けて。世話人のガス抜きは必要。また、講義には統一性が欲しい。世話人の意識を向上してもらう為にも、世話人が誇りをもてる仕事であるということをおさえて話してもらえる講師を招く。あるいは今年度に引き続き山田さんに継続してきていただく。勤務形態を考えると、今回開催した時間帯。法人の予算もあるため、当面は年に1回の開催で行い、将来的には各地区のメンバーが引っ張ってくれるようにもっていく。バックアップ職員も生活支援をしていく事から理解を促せるように、世話人及び職員の両者を交えた研修。グループワークは別に行う。
- ・ 世話人が余暇支援している現状から、ボランティア精神がないと難しくなっている。

法的に世話人の業務を線引きしているわけではないので、世話人やバックアップ職員の裁量による所が大きい。そこを切り崩していく事は難しい。インシデントプロセスで崩しつつ、個別支援計画で明確に線引きしていく。→グループホーム研修でそこまで踏み込んでよいものか？

- それぞれのグループホームでの実践を発表してもらおう。決して批判しない事を前提に、個々の実態を見てもらう。県内は、ある一定レベルの範囲ではなく、このグループホームごとに激しい差がある。何が良いか悪いかではなく、様々なパターンの発表を聞く中で、互いの違いを知ってもらう。この場合は、それぞれの支え方の違いがあるので、世話人だけ、バックアップ職員だけと別に分ける。他に、グループホームを利用している人たちのためだけのものもいずれは必要。

◎福島としては、世話人が一定レベルになるように、育てていきたい。現在は、不満を持ちながらも耐えている状態。研修を通して世話人に伝えていくだけではなく、世話人を支える側であるはずのバックアップ職員にも伝え、各自が世話人研修を行っていけるように方向付けていく。本来は各圏域毎に毎月行っていく事が理想であるが、現状は無理であるので、当面は県単位で考えていく。来年度も、今年度同様の1日研修で考える。9月あたりを目途に。詳細については、2月の学会研修を受けて再度調整していく。

### ③ 群馬（2回実施）

研修会名	第9回地域生活支援合同研修会
日時	平成19年11月5日（月） 10:00～15:00
場所	群馬県社会福祉総合センター B01会議室
内容	10:30～講演 「GHと地域防災」 11:40～テーマ別ミニ学習会① 大地震だ！どうする？ 13:00～テーマ別ミニ学習会② 火災対策～知識とその心構え～ 13:20～テーマ別グループワーク・防災についてどんな事が不安ですか
参加者数 及び職種等	参加者数 福祉協会関係 51名（施設長1名・寮長1名・サービス管理 責任者2名・世話人47名） NPO法人関係 8名 計59名
<p><b>参加者の感想</b> （研修会反省会で出た意見等です。この時の参加者7名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災」について、最初はホーム支援に必要かと思ったが、終わってみれば聞いて良かったと思う内容だった。</li> <li>・いままで無関心だった地域防災などにも、目をむけるようになった。</li> <li>・群馬県は地震に対する恐怖感があまりないため、火災についての講義を中心にほしかった。また、地震の講義のなかでイラストで注意を促すというのがあったが、あのイラストは自分たちではなかなか描けないので資料としてほしかった。</li> <li>・タイムスケジュールの必要性、また、一人一人にいざというとき、どういう支援が必要か考える事の大切さにも気づかされ、ホームにもどりすぐ実践した。</li> <li>・グループワークはあまりやった事がなく、抵抗感もあったが、実際にやってみると、いろいろな意見が聞け、良かった。ふだん、話す事などなかった他のホームの世話人さんとも会話でき、それも良かった。</li> <li>・全体の意見としては、良い話しが聞け、防災についても、関心を持ってもらえた事は、研修会としては、成功だったと思える。</li> </ul> <p><b>今後の研修における課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が年々少なくなっている事・・・どうすれば、出席してくれるか。出席しやすい研修会とは・・・</li> <li>・今回、施設職員にも声掛けしたが、なかなか出席してくれなかった。 施設の研修会への取り組み方によっても、参加したいのに参加出来ない世話人が出てきてしまう。今後も、施設職員等に声掛けし、世話人研修の必要性を訴えていく必要がある。</li> <li>・世話人自身の意識改革、研修に出なくても、知識はパソコンから得られる・・・そんな考え方の人もいて、研修会の必要性等、伝えきれないもどかしさを感じる。</li> <li>・世話人の資質の向上を年間テーマにしたが、資質向上のためにどういった研修内容に</li> </ul>	

し、講師をどう選んだら良いか。 ・世話人だけでなく、大勢の関係者を巻き込んで研修会を開催したらどうか。	
研修会名	研修会
日 時	平成19年12月14日（金） 10:00～14:30
場 所	群馬県社会福祉総合センター 7階701会議室
内 容	10:10～12:00 講演 グループホーム援助のポイントから 1. 地域で暮らすということ 2. グループホームとは 12:50～13:50 質疑応答 14:00～14:30 各種委員会
参加者数 及び職種等	参加者数 37名 37名すべて世話人
<p>・何年も世話人業務にかかわっている人と、新しい人とがいるなかで、グループホームの原点、「なんのためにホームを作ったのか」等の話しが聞け、良かった。</p> <p>・研修の大切さも伝えてもらえ研修会への呼びかけをあきらめず続ける事の大切さに気づかせてもらった。</p> <p>・世話人の仕事は何も知らなくてやっていける仕事ではない。「知ること」も必要勉強しなくてはいけないこと（専門性）たくさんある。これを訴えていかないといつまでも時給800円で終わってしまう・・・この言葉にはっとさせられた。</p> <p><b>今後の研修における課題</b></p> <p>・参加者が減っている。</p> <p>・研修の案内が世話人に届かないところが増えてきてしまっている。 施設・ホーム宛に送るのではなく、世話人に直接送ったらどうかという意見もあるが、研修会に参加する為に、施設長等に許可がいるため無理では・・・ 自費で出席するのであれば別だが、自費参加もどうか。</p> <p>・質疑応答のあり方についても、考えなくてはならない。 今回ももっと質問したい人等いたが、司会者等の話が長くなってしまったりで時間が来てしまった。</p>	

## ④ 横浜

### 《実際に行なった研修の流れ》

#### ○ 事前作業

- アンケート ① 「地域で暮らしてるんだな」と実感するとき
- ② ケースについて書いてもらう。
  - ③ 地域の授産施設がつくるお弁当の注文の確認作業

#### ○ 当日の流れ

	南部 (11/26)・東部 (12/17)	西部 (1/21)・北部 (1/31)
11:00～	1. 室津茂美さんからテキストの説明 2. 室津滋樹さん講演 「グループホームが大切にしてきたこと」	3. 横堀(コーディネーター)よりテキストの説明と、内容を大雑把に説明 4. テキストを受けて、ディスカッション 普段ホームでどんな援助をしていますか？
	アンケートの結果の発表と、各々の自己紹介(名前と所属、仕事してて楽しかったこと)	
12:00～	昼食交流会 (お弁当代は徴収、お茶はこちらで用意)	
13:00～	「インシデント・プロセス法」によるケースについての話し合い 各島で5～10名程度になるようにわかれて、それぞれ違うケースについてディス。	

### 《のべ参加人数》

第1回南部 15名、第2回東部 15名、第3回西部 12名、第4回北部 13名、  
講師・コーディネーター延べ6名。 総計 60名の参加。

### 《費用・別添》、《事前アンケート結果・別添》

#### 《振り返り》

#### ○ 1.2. について

室津さんの話があることで、ただ「テキストでござい」と配るだけでなく、新人・ベテラン・経験年数に関係なく、テキストを実際に読むきっかけになった。

#### ○ 3.4. について

午前中の話し合い→昼食時の話題や、午後の話し合いにうまくつながった。

日ごろ何気なく自分がしている援助を振り返る機会になった。

同じ仕事をしている同士の「共感」があった。(←→この人はこうだから、こう支援しなさい)

それぞれの工夫（現場の生な感覚）が出てきた。それらを客観的に見る機会になった？

例) 何気ない声かけが、思わぬ効果を生んで支援につながったり…

#### ○ 午後の部について

4回やったことで、司会者自身が場慣れしてきた。

同様の研修を広めていくためには、司会をできる人をもっと増やしたい。

同じ組織から複数参加していて、ケースも特定できてしまうようなとき、難しい面。

プライバシーの問題／ケース会議になってしまう・「この人はこうだから、だからこうしたのよ」

#### ○ 全体として

いろんなスタッフがいて面白かった。

たとえば、現場裁量の度合いが重いところや、比較的トップダウン的に問題解決のしくみが決まっているところ、バックアップ・スタッフが個別の支援を決めたり問題に取り組むところなど、同じ現場スタッフでもいろいろな立場があるということが、分かった。

コーディネーターのメンバーも同じ立場の現場職員ということで、話し合いやすい雰囲気をつくりやすかった。

テキストだけだと「こういう考え」という教科書で「まあ理想はこうだけど…」で終わってしまう。現場の様子やケースを話し合うことで、いろんな考えがあること、大まかなところでは同じでも細かい点でいろんな方向性があるなあ、と思った。

ただし、「大きな方向性」が経営的な考えに傾きすぎたり、障害者の権利や自立支援に反するものにならないように、モニタリングする必要がある（支援センターの役割）。

横浜（連絡会の会員）は、比較的小さな運営主体（運営委員会）が1～数箇所のホームを運営していて、それぞれの現場でそれぞれの工夫がある。それらをうまく引き出すことができたのでは？

例えば大きな施設がたくさんあるようなケースで、世話人は衣食住の支援のみ、金銭管理や日中との連絡などは本部の担当が行なう、という場合がある一方で、上記のような「横浜らしさ」を発見した。

### 《参加者のアンケートより抜粋》

- ・ あまり積極的に発言しない人にとっては、必ず発言する機会が与えられるのは緊張感があり、記入も短時間で集中して書くことで、話し合う時間が多くとれてよかったと

思う。

- ・ 話し合う場が持てた。面食らったものの良い経験でした。
- ・ 「結論を出さない」というところが新しく感じました。
- ・ 突っ走るタイプなので、立ち止まって他の人の考えもよくきこうとあらためて感じました。
- ・ 「それ分かる」と思うことや、自分の言ったことを「わかる」と言ってもらえると、(1人で勤務しているので)自分だけでないと思えて心が楽になった。
- ・ 書くことによって意見をまとめることができたり、他の人の意見などと比べたりできて、わかりやすかったです。
- ・ 話があちこちに行ったり特定の方に話が偏ったりせず良かったです。言葉による限界も改めて感じました。
- ・ 自分の価値観に固執して援助しがちになってしまうので気をつけようと思います。色々な人の意見を聞いて、もう一度自分の援助を見直してみようと思います。
- ・ 同じホーム職員同士なので参考になりました。
- ・ 交流も含めて今後も定期的に行なえたら良いのではないかと思います。
- ・ 各ホームの様子がわかってよかったです。
- ・ 回を重ねるごとに慣れてきました。

## ⑤ 神奈川

〈日時〉平成20年2月27日（水） 10:15～15:15

〈場所〉愛名やまゆり園 体育館

〈対象者〉厚木愛甲地区の世話人、生活支援員、サービス管理責任者など

〈参加者〉44名（講演のみ10名、終日参加34名）

〈主催〉日本グループホーム学会

### 1) 講演会報告

演題：「少ないお金 大事に使って広がる暮らし ―知的障がいの方の金銭トラブルの防止とお金の管理を支えるために―」

講師：世田谷区就労障害者生活支援センタークローバー所長 江國泰介氏

内容 第一部：金銭トラブルに気をつけよう！（知的障害者が遭遇する金銭トラブルの事例と防止策について）

第二部：お金を巡る支援のアイデア（支援とは何か、金銭感覚を養おう、具体的な収支バランス、小遣い、家族からの自立）

#### 講演の感想

- ・ GHのサービス管理責任者も金銭については家族に中々いえない。
- ・ 特化した問題なので、もう少し一般化した話の方が良かった。
- ・ テーマを3点ぐらいに絞ってみてはどうか。
- ・ 内容が具体例に富んでおり参考になった。分かりやすく日頃の利用者支援にとっても役立つ内容だった。
- ・ お金の使い方、他人の話ではない。自分に当てはまるものがたくさんあった。
- ・ 金銭管理を巡る利用者の方との攻防戦？ヒントになることが多かった。是非活用したい。
- ・ 朝早くから夜遅くまで世話しなく働いている中で今回の研修はとても参考になった。
- ・ 少し講演内容のレベルが高いようにも感じたが、今後必ず役立つ内容だと思う。
- ・ 金銭トラブルについての事例が幾つも挙げられ、問題の多さに驚いた。だます側が高度になっているので本人も家族も対応が難しくなっていると思う。
- ・ これからの利用者の方の観察、又多方面でのサポートに参考になった。
- ・ 金銭感覚の身につけ方が参考になった。

### 2) グループワーク報告

目的：インシデントプロセス法により、事例の答えを導き出すのではなく参加者個々の「気付き」を大切に日々の業務に生かす。



参加者：34名（1グループ6、7名×5グループ）

<インストラクター>

- A 村尾朗 ふきのとう向生舎施設長
- B 牧野賢一 湘南支援センター 下宿屋所長
- C 小川陽 サービスセンターばる課長
- D 小池憲一 愛名やまゆり園 地域生活支援課長
- E 中川太朗 愛名やまゆり園 ケースワーカー

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 方法 | ①趣旨の説明                             |
|    | ②事例発表                              |
|    | ③司会者より事例提供者に対し質問をする                |
|    | ④参加者が事例を受けて、印象・対応策・その理由を書く         |
|    | ⑤グループ内で発表し事例提供者への質問項目をまとめる         |
|    | ⑥事例提供者からの回答を受けて再度個々に対応策を見直し理由をまとめる |
|    | ⑦グループ内で再度発表する                      |
|    | ⑧全体発表                              |
|    | ⑨事例提供者より、感想                        |
|    | ⑩参加者、インストラクターより感想                  |

### グループワークの感想

- ・ レポート形式で意見が述べやすかった。
- ・ グループ内でプラス志向で話し合いが持ててよかった。
- ・ 短時間の中で、事例の内容も異性問題と難しく苦労した。
- ・ 我々が話した内容にご本人が納得したのだろうか疑問。
- ・ 世話人業務の大変さ、大切さ、楽しさなどを他の方々と共有できてよかった。
- ・ 現在の自分のホームとは直接関係のない内容だったが意見交換ができておもしろかった。
- ・ ひとりで考えるよりも他人の考え方を聞くのはとても参考になる。いろいろな人から意見をもらい、励みになったと思う。
- ・ 具体的な相談内容だったのでためになった。
- ・ 世話人の交流があれば嬉しい。世話人が学ぶ機会が少ないのでこういう機会を今後もぜひ作ってほしい。
- ・ 次回は自分のホームから事例を出して検討してもらいたい。
- ・ 今後も世話人の交流会を設けて、情報・意見交換をしていきたい。
- ・ 結婚願望は誰にでもあるもので、それを口に出せている面を評価したい。
- ・ 当たり前の欲求だからこそ、自分が人からされたいような支援をしたい。

### 3) 全体の感想

- ・ もっと色々な視点から障害を見ていきたい。
- ・ グループワークのインストラクターの方の進行が良かった。テーマも良い。
- ・ 午前の講演、午後のグループワークと2つの違った問題を学ぶことができ有意義な研修だった。
- ・ 世話人は一人仕事なので、このような意見を言える場所があるのは嬉しい。次回の開催に期待。
- ・ また世話人同士が集まれる会が行われると良いと思う。多くの世話人、職員等参加者の意見を聞くことができてよかった。

## ⑥ 長野

1. 期日:2007. 12. 4(火) 13:00~15:30
2. 場所:長野県伊那市福祉まちづくりセンター
3. 講師:神戸大学大学院准教授 大西一嘉先生
4. 演題:ワーツ 地震! 火事だっ! あなたならどうする?  
——グループホームスタッフは何をすべきか——
5. 出席者:33人(世話人さん23人、バックアップ職員2人、デイサービスセンター2人  
行政2人、支援センター4人)

### ○ 参加者の感想

- ・ 初めての研修内容で参考になった。
- ・ 地震や火災のシナリオ等を作り、ホームの皆で話し合い、自分たちの防災対策を立てて行きたい。
- ・ プロの方からの専門的な知識を学び、大変よかった。
- ・ 発生した時、まず何をしたらよいか等、具体的にわかりやすく説明され、大変よかった。
- ・ 「入居者の特性を踏まえた対応」が印象的であった。いざという時にご本人が正しく対処できる状況を作っておくことが大切な支援だと思った。
- ・ 入居者に身近に感じてもらうためにも、地震や火災についての話題を日常的に言葉にするよう心がけたい。

### ○ まとめ

- ・ 上伊那圏域のグループホーム世話人研修会では、今まで一度も防災関係の研修会を実施しておらず、関心が高かったので、いつもの研修会よりも沢山のホームから参加してくださった。
- ・ 自分のグループホームの課題を実感していただくために、前もってチェックリストを先生にお願いして作っていただいた。講演が始まるまでの待ち時間に記入していただき、問題意識を持って講演を聞くことができたのではと思う。なお、記入してもらったリストは先生が持って帰られ、統計をとってくださり、また教えてくださることになっている。リストが欲しい方には、余分に作ったリストを持って帰っていただいた。演習する時間がなかったことが残念。
- ・ 今回は、様々な立場の方にお話を聞いていただきたかったので、行政やバックアップ施設の職員の方にも呼びかけた。少数ではあったが参加してくださった。

### ○ 今後の研修への課題

- ・ 世話人さんたちの聞きたい研修内容をどう把握するか。毎回聞きたいことをアンケートに書いていただいているが、なかなか出てこない。今のところ、①世話人さんのメンタルヘルスについて②入居者との接し方・支援の仕方、という希望が出ている。
- ・ 年3回の研修会の他に、山田優さんを迎えてインシデントプロセスの講習会を11月に行った。

これが定例化すればいいと思っている。グループホーム世話人さんの中から、自主的にサークルが出来ればと思うが、まだ現実的ではない。

- 次回3月の研修会は、学会の冊子を使って、グループホームの理解と入居者との接し方を勉強しようかと思っている。

## ⑦ 三重

### ・ 研修の趣旨

平成18年1月8日、長崎県大村市の認知症高齢者グループホームで火災が発生し、7名の入居者が亡くなるという大惨事が起こりました。また、阪神大震災や、中越地震でも、多くのグループホームを始め知的障がい関係施設が被害を受けています。

グループホームやケアホームでの防災対策や、避難訓練の実施方法など、具体的に考える研修にしたいと思っています。また、午後の分散会は、参加者による自由なディスカッションを予定していますが、今回の研修のテーマでもある「GH・CHの防災対策や避難訓練のあり方」と「現在抱えている問題や課題・困りごと」等について2名の世話人さんから発題をしていただき、それを受けて参加者各位にご意見をいただければと考えています。

グループホームでの問題点として少なくないのが、入居者間等のトラブルにより、グループホーム等での暮らしが困難になって、継続できなくなる場合があります。以前と同様の家族との生活に戻る選択が可能なら良いのですが、そうできない場合は、また違う環境に置かれ、精神的な影響を受けることも多々あります。

また、入居人が病気等になり、入院等の状態が長く続くと、運営ができなくなるケースもあります。他にも、病状によっては、グループホーム等では対応が難しく、グループホームを出なければならぬ場合もあります。その他にもたくさんの困りごとに直面している世話人さんや担当者の方の意見交換・情報交換の場としていただければと考えています。

2. 開催期日 平成20年 3月21日(金)
3. 会場 三重県人権センター  
全体会 3F大セミナー室  
分散会 3F大セミナー室・3F中会議室  
〒514-0113 津市一身田大古曾 693 番地 1  
TEL059-233-5501 FAX059-233-5511
4. 主催 三重県知的障害者福祉協会
5. 共催 三重県
6. 後援 日本グループホーム学会
7. 日程 9:30～ 研修スタッフ集合  
10:00～ 受付  
10:20～ 開会  
三重県知的障害者福祉協会 会長 近藤 忠彦氏  
三重県健康福祉部 障害福祉室 室長 脇田 愉司氏

- 10：30～ 講演  
テーマ「グループホーム及びケアホームの防災対策」  
講師 東海女子短期大学 介護福祉学科 曾我千春氏
- 12：00～ 昼食
- 13：00～ 世話人さんからの発題  
橋本恵津子氏 (伊賀ホーム世話人)  
石垣 希山氏 (ケアホームつくしの家世話人)
- 14：00～ 分散会 (防災対策・課題や困りごと等の意見交換)  
A グループ (20名)  
B グループ (20名)  
C グループ (21名)
- 15：30～ 閉会

8. 参加者数 61名
9. 参加者職種 世話人 (34人)、GH 担当支援員 (4人)、支援員 (17人)  
施設長 (6人)

#### 10. 参加者の感想

##### 1). 講演について

- ①GH における避難訓練及び緊急時の対応の他、福祉職員としての大切な心構え等についてわかりやすくご講演をいただき大変よかった。
- ②長崎の GH 火災事故や GH「たかまつ」事件を例に取り入れ、夜間一人体制の危険性についてお話を聞き、法人としての今後の取り組みについて考えさせられた。
- ③講師の方が7つの提言をされ、とても印象に残った。(1. GH を人権の砦に、職員を人権の担い手に。2. 経営者・職員のレベルアップと労働・生活条件の向上。3. GH の職員配置基準の見直し。4. 夜間の法規制の強化。5. 職場改革。6. GH 経営の非営利化。7. 介護報酬の見直しと介護保障への転換。

##### 2). 分散会について

- ①災害時の準備物について必要な物の確認ができた。
- ②持ち出しリュックを各自で部屋に保管しているホームもあり、参考になった。
- ③各部屋に煙探知機の設置が必要だと感じた。
- ④消防署と一緒に避難訓練をしているグループホームもあり、今後検討したい。
- ⑤入所施設と連携して行っているホームもあった。
- ⑥世話人として利用者に家庭的な雰囲気を味わってもらえるようにしたい。
- ⑦時には、利用者に甘えさせてあげることも必要であると感じた。
- ⑧誕生日及び外出等のイベントを多く考えたい。
- ⑨立ち上げの時点で反対意見や、厳しい空気を目の当たりに感じた。
- ⑩利用者の個性 (良さ) を理解してもらう必要がある。

- ⑪地域の奉仕活動に参加している。
- ⑫利用者の代弁者となるようにしたい。
- ⑬利用者の高齢化で将来の支援が不安である。
- ⑭言葉でのコミュニケーションができない利用者との関わり方が難しい。
- ⑮ホームが老朽化しているので建て替えて欲しい。
- ⑯世話人の賃金が安いので、報酬を上げてほしい。
- ⑰世話人の身分保障をして欲しい。
- ⑱グループホームに対してバックアップの機能を果たしていない施設がある。

## ⑧ 兵庫

1. 開催日時 2008年3月22日(土) 10時～15時(受付9時30分～)
2. 開催場所 兵庫県西宮市勤労会館 第二会議室
3. 研修対象 GH/CH 管理者・サービス管理責任者・GH/CH 責任者(主任世話人等)
4. 定員 50名(先着順)
5. プログラムについては要項参照
6. B参加者数 精神関係者 3名(3名欠席) 知的関係者 30名(一名欠席) 身体関係者 3名
7. 事前アンケート回答事業所 21箇所(102箇所送付)添付します。
8. 事前アンケート回答集計については、別紙(アンケート集計)参照
9. 研修終了後のアンケートについては別紙参照
10. 予算決算書
11. 研修を振り返って

兵庫県の生活ホーム制度が4月から身体、10月から知的・精神が廃止される事が事前に分かっていたので、関心が高い時期での開催は良かったと思う。そんな逆風の中、兵庫県の障害福祉担当官二名が講師を引き受けて下さったのは幸いだった。質疑応答では流石に責められていたようですが。

特に、世話人の勤務状況が厳しいという話を聞いていて、研修に出したいが土日はヘルパー(移動支援)に行かないと人手が足りない(普段の勤務にプラスして!)と言う現状が参加者が定員埋まらなかった原因の一つではないかと考えている。

兵庫県の担当官の話は緊急対策の説明に終始して兵庫県の独自施策はほとんど国の予算の裏打ちのある事業のみなるようで、アンケートにも不満が書かれていた。

光増さんの話はまとまっていて分かりやすいと評判でした。アンケートにもその様子が多く書かれていました。

午後からの障害種別に分かれてのディスカッションは4班(精神1・知的3)に分かれて行いました。ICレコーダが4つ用意できなくて、詳細な内容の報告は出来ません。(御了承下さい。)

全体発表では、地域格差(基礎自治体間格差)が鮮明になっていたようです。例えば、兵庫県の生活ホーム事業廃止を受けて、いち早く自治体で手当を考えている所から、廃止を初めて聞いて愕然としている人まで兵庫県内でも様々な受け止めようでした。世話人に対する研修だけではなく、せめて情報格差を埋めていく事にもこのような研修会の意義があるのかな、と考えさせられました。



## ⑨ 鳥取・島根

1. 日 時 平成20年3月5日(水)

10:00～13:00

2. 場 所 いきいきプラザ島根 4F403号室

島根県松江市東津田1741-3

3. 参加者 56名

4. 日 程

9:00～10:00 受付

10:00～10:50 山陰のグループホーム調査報告

講演 島根大学法文学部福祉社会教室 准教授 加川光浩氏

司会 山陰グループホームスタッフ研修会 代表 山本剛志

10:50～11:00 休憩

11:00～12:00 障害者の支援をする環境の活用と作り方

講演 島根大学法文学部福祉社会教室 講師 京俊輔氏

司会 山陰グループホームスタッフ研修会 代表 山本剛志

12:00～13:00 その他(意見交換)

島根大学法文学部福祉社会教室 准教授 加川光浩氏

島根大学法文学部福祉社会教室 講師 京俊輔氏

山陰グループホームスタッフ研修会 代表 山本剛志

司会 地域生活支援センターはばたき 所長 植田康弘

5. 内容報告

(1) 山陰のグループホーム調査報告

島根大学法文学部福祉社会教室 准教授加川光浩氏

- ① GH調査の経緯について
- ② GHスタッフ研修会の目的について
- ③ 世話人の持つ悩みについて
- ④ 聴き取り調査から見えてきたこと
- ⑤ 今後の課題について
- ⑥ まとめ

(2) 障害者の支援をする環境の活用と作り方

島根大学法文学部福祉社会教室 講師 京俊輔氏

- ① 三障害のニーズについて
- ② 問題行動とは何かについて

- ③ 達成要求行動について（カップ麺の作り方を通して）
- ④ 地域とは何かについて
- ⑤ 利用者を中心に考えた生活について
- ⑥ まとめ

### （3）その他（意見交換）

島根大学法文学部福祉社会教室	准教授	加川光浩氏
島根大学法文学部福祉社会教室	講師	京 俊輔氏
山陰グループホームスタッフ研修会	代表	山本剛志
地域生活支援センターはばたき	所長	植田康弘

- ① 身体障害者のGH利用は難しいか？
  - ・ 現状では難しいので、県の自立支援協議会等の場で話をしてもらおう。
  - ・ 自立支援法の整備が整っていない。
- ② 世話人をローテーションしても大丈夫か？人間関係は？
  - ・ 1 GHに専従の世話人がいた方が良い。
  - ・ 数箇所掛け持ちをすると食事の時間が遅くなる事が考えられる。
  - ・ 見守りや寄り添う時間が少なくなる。
  - ・ 人間関係を安定させるには、1 GHに1人の世話人が理想的である。
- ③ 世話人・バックアップ機関の他に利用できる機関があるか。
  - ・ 話を聞いてくれる人は全て支援者になる。共感を持ってくれる人。
  - ・ 心と体の相談センターに相談。
  - ・ 内容によって相談に行く場所が違う。
- ④ 個別支援計画作成について世話人はどれくらい協力的か。
  - ・ サービス管理責任者、世話人、保護者、本人等と話し合っって計画を立てる。
- ⑤ 重度の障害があってもGH利用は可能か？
  - ・ 可能である。しかし、職員配置が出来るかは施設によってである。
  - ・ 実現する為にはどうしたらよいか考えていく。
  - ・ サービスの質の向上のために、ケアマネージメントを行い、ケアプランを立てることが大切。
  - ・ 使えるサービスを上手に利用する。
- ⑥ お風呂に入らない、洗濯をしない利用者の対応
  - ・ 余暇活動にお風呂、温泉を取り入れてみる。

## ⑩ 徳島

1. 研修会会場・・・徳島県名西郡石井町石井字白鳥71-1「れもんカレッジホール」
2. 参加人数・・・36名
3. 参加者職種・・・「施設長」「サービス管理責任者」「GH世話人」
4. 研修内容・・・障害者の消費者トラブルについての講演

講師：徳島県消費者情報センター 消費生活相談員 関本美佐子氏  
情報交換

### 5. 参加者の感想

- ・悪徳商法の対処の仕方等、くわしく説明が聞けて参考になりました。利用者の方に説明して、いかに理解していただくかが、今後の課題になりそうです。
- ・今日初めて、消費者のトラブルの話を聞きましたが、自分自身がしっかりしなければいけないなあと思いました。それと、情報センターのあの時間帯では、相談しにくいことも分かりました。
- ・クーリングオフについて、大変参考になりました。クレジットでは、20日クーリングオフができることを知りました。私たちも十分気をつけて生きたいと思います。
- ・詳しい内容で、勉強になりました。特にクーリングオフのハガキの書き方など、だまされないと思っていても、対処の仕方を知っておくことは大切だと思いました。
- ・契約しても、特に不信感を抱いたときは、クーリングオフの制度を利用して、消費者情報センターへ相談すること、利用者さんにはマルチ商法にだまされないよう普段から注意しないといけないことを学びました。
- ・クーリングオフの書き方を実際にしたこと、何かあった時に、慌てずに対処できるように思いました。
- ・悪徳商法は、障害者だけに関わらず、誰でもかかるものと再認識しました。利用者さんは疑うことが少なく、だまされやすいと思うので、クーリング期間に気づけるよう、アンテナをはっていただければと思いました。
- ・若者、高齢者、障害者が被害を受けやすい事例が多く、対処方法などを教えて頂きました。今後、サービス管理責任者として、地域で生活する人のお手伝いができるような講習を受けさせていただき、大変勉強になりました。今後の支援に役立てていきたいです。GHを利用している利用者の相談に乗り、適切に対応していきたいです。次回の研修は、多数参加が予想される支援センターで開いていただきたい。
- ・利用者の方に悪徳商法等にひっかからないようにするための支援についてが課題と思います。  
訪問販売に来たら、その場で支援者に電話するとか、玄関から中には入れないとか、

サインは絶対にしないと、何らかの行動が起こせるような支援をしていかなければならないと思います。

- ・私の担当しているGHでは、消費者トラブルを経験していませんが、これから起こりうることなので、とても参考になりよかったです。
- ・あまり理解できていなかったクーリングオフの件が、今日の話でだいぶ理解できたように思います。利用者の皆さんに、このようなことが起こらないよう願います。
- ・身近に起こりそうな事案のビデオとクーリングオフの仕方を実際にしてみて、非常に分かりやすい研修でした。
- ・トラブルを少しでもなくし、話をして早く気づきたいと思います。
- ・クーリングオフの品物に限定があることを知りませんでした。勉強になりました。
- ・クレジット会社に返品する際、ハガキに記入して出すという方法を教えてもらいよかったです。悪質な勧誘には気をつけたいと思います。
- ・消費者トラブルは、身の回りや新聞、テレビ等で耳にしたり目にしたりしている事柄ですが、幸いまだ経験したことがなかったのですが、今日判例をいろいろあげて勉強してみて、いざそういう場合に当たると、何も知らなかったときよりも落ち着いて対処できるような気がしました。最初のマギー審司さんのビデオ教材は、おもしろく、興味深く頭に入りました。
- ・一時期、よく消費者トラブルについてTV等でよく見ていましたが、クーリングオフは、期間や特例さえあてはまれば、すべての商品がクーリングオフできると思っていました。「消費者情報センター」という名はよく聞くのですが、自分がよく知らなかったことがよく分かりました。
- ・毎日の様子や変化を観察し、困ったときは、消費者情報センターに相談したいと思います。
- ・だまされることは誰にでもあると思います。だまされないよう、自分も利用者さんも、日々の生活をしていきたいと思いました。
- ・開封したもの、使用したものでも、クーリングオフの対象になる場合があることを知りました。
- ・消費者トラブルは、初めての研修会です。いろいろと聞いたりはしていましたが、このようにサンプル等で、分かりやすく説明をしていただき、大変有意義な時間だったと思います。知的障害のある利用者との対応であるので、分からず見落とす結果も多々あると思います。今後参考にして役立てたいと思います。

### 3. 今後へ向けて

#### (1) 今年度の成果

今年度、3回のコアスタッフ研修を通して、全国20地域からコアスタッフ養成研修への参加を得た。全国研修会時に実施した最終アンケートでは、「コアスタッフ研修を受講することで、自分の地域のグループホーム・ケアホームや世話人のおかれている状況を、広い視野で見直すことができ、地域のグループホーム・ケアホームの世話人研修の課題がより明確になった」との意見が多かった。また、「近隣地域のコアスタッフ候補者との関係作りに役立ち、今後、コアスタッフとして活動していきたいという意欲がわいた」との意見が多数を占めた。さらに、コアスタッフとして活動していくための具体的方法や考え方のヒントを得て、半数の10地域で地域の実情に応じた研修が実施された(2008年3月末時点)。各地ではその課題分析も行われ、次の計画への取り組みが始まっている。研修実施に至らなかった地域でも、世話人のネットワークをつくる等の動きがあり、中心人物としてのコアスタッフ養成を行ったことの効果があった。

<年間のコアスタッフ研修をとおしての効果評価> (2008年2月11日実施)

#### 【質問項目】

1. 自分の地域のグループホーム・ケアホームや世話人のおかれている状況を、広い視野で見直すことができたか。
2. 自分の地域のグループホーム・ケアホームの世話人研修の課題がより明確になったか。
3. 隣接地域のコアスタッフ候補者との関係作りに役立ったか。
4. コアスタッフとして活動していきたいという意欲がわいたか。
5. コアスタッフとして活動していくための具体的方法や考え方のヒントを得たか。
6. コアスタッフ合宿での学びを踏まえて、自分の地域で世話人研修を企画し、実施したか。

#### アンケート集計人数 (回答数31人)

(単位：人)

	とてもできた	できた	あまりできなかった	まったくできなかった	未記入
質問1	6	18	5	0	2
質問2	とても明確になった	明確になった	あまり明確にならなかった	全く明確にならなかった	未記入
	6	20	3	0	2

質問 3	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	まったく役に立たなかった	未記入
	10	17	2	0	2
質問 4	とても意欲がわいた	意欲がわいた	あまり意欲がわかなかった	まったく意欲がわかなかった	未記入
	6	22	1	0	2
質問 5	とてもヒントを得た	ヒントを得た	あまりヒントを得られなかった	まったくヒントを得られなかった	未記入
	9	20	0	0	2
質問 6	企画し、実施した	企画したが実施はこれから	企画をこれからする	現在は企画の見込みなし	未記入
	10	8	9	1	3

## (2) 今後へ向けて

世話人同士のつながりもないところから、定期的に研修会を行っているところまで各地の状況は様々である。学会としては、各地の状況に応じた動きを応援するために、コアスタッフ同士の連携と情報交換を応援し、新たなコアスタッフの養成にも取り組んで行く予定である。

与えられる受身の研修ではなく、世話人をはじめとする現場のスタッフが本当に必要としていることをテーマにしていく手作りの研修を行い、援助者一人ひとりが孤立せず、質の高い援助を提供できる環境づくりを、ともに進めていきましょう。

私たちは、「講師の話しを聞くだけ、テキストを読むだけでなく、参加者が主体的に能動的に参加する方法での研修」を行う必要があります。その具体的な方法について検討しましょう。

今日の進め方：① 2つのテーマを3通りの研修方法で行う

②参加者は必ず1回、司会進行役を体験する

③研修方法や進め方について振り返る

→ ①～③をとおして、意図的な研修方法について検討する

\* どの方法が最善かを考えるのではなく、どの方法にもある長所、短所を意識したり、工夫できる点、どのように効果的かなどを検討しましょう。

テーマ1：「自立」について

テーマ2：「家族との関係」について

研修方法1：自由に話し合う

研修方法2：事例を用いた書き込み法（インシデントプロセス法の単純形）

研修方法3：ロールプレイ

\* 6通りの **テーマ×研修方法** がありますので、司会者が好きなものを選んで行ってください。（同じテーマ・研修方法がなるべく重ならないよう、いろいろ検討できるようにグループ毎に調整してください）

\* 20分模擬研修を実施し、10分は振り返りとします。振り返りは各自が書き込み部分に記入し、それを発表し合ひましょう。（司会者は、時間管理も行ってください）

\*\* この参考資料において「テキスト」とは、当学会が発行している「グループホーム援助のポイント」

**テーマ1：自立について × 研修方法1：テキストを参考に、自由に話し合う**

**<事前準備>**

特に無し（ただし、テキストを用意する、もしくは読んできてもらう）

**<今日使う質問>**

「自立していない状態とはどんな状態だと思いますか？」

**<進め方>**

- ① 司会者はテキストの6頁、10頁を参考に、導入としての**質問**を設定し、参加者に投げかける
- ② 自由に話したい人が話す
- ③ 司会者は適宜進行する

<振り返り：参加してみてどうだったか？自分が主催者・司会者ならどうか？>



## テーマ 1 : 自立について ×

### 研修方法 2 : 事例を用いた書き込み法 (インシデントプロセス法の単純形)

#### <事前準備>

- ① 参加者に 200 字程度にまとめた出来事事例 (問題にしたい場面での関わり) を提出してもらう
- ② 書き込み用シートを用意する

#### <今日使う事例>

「当ホームは軽度の方が多い。家事や炊事なども、できることはなるべく自分で行えるようになって、1 人暮らしをする人がでて欲しいと思っている。しかし、食事の後の食器洗いや、部屋の片付けなど、度々伝えてもやらない利用者がある。手伝って欲しいところがあったら言って欲しいとも伝えているのに。どうしたらいいか。」

#### <進め方>

- ① 事例提出者は、事例を具体的に説明する (ここに書かれていない事に関しては想像で)
- ② 司会者は、その場面を参加者全員が具体的にイメージできるよう質問する
- ③ 参加者は、自分ならどう関わるかを自分の言葉で、印象、対応策、その理由について書き込み用シートに書き込む
- ④ それぞれが机の中央にシートを出し合い、みんなに見えるようにし、発表する
- ⑤ 司会者は、それぞれに対し、書き込まれた内容が具体的に becoming するように質問する
- ⑥ 事例提出者が、気づいたこと、今ならどう関わるかなど発表する
- ⑦ 参加者が感想を述べ合う

<振り返り : 参加してみてどうだったか? 自分が主催者・司会者ならどうか? >

## テーマ1：自立について × 研修方法3：ロールプレイ

### <事前準備>

- ① 主催者側で、ロールプレイで取り上げたい状況を設定する
- ② ①に伴い、配役を定める

### <今日使う状況設定と配役>

状況：当ホームは軽度の方が多い。家事や炊事なども、できることはなるべく自分で行えるようになって、1人暮らしをする人がでて欲しいと思っている。しかし、食事の後の食器洗いや、部屋の片付けなど、度々伝えてもやらない利用者がいる。手伝って欲しいところがあったら言って欲しいとも伝えているのに。

配役：①世話人（本人が自立していくことを希望）②入居者A（自立を考えているがどうして良いかわからない）③入居者B（自分でいろいろやるのが面倒なのですべて世話人にやってもらいたいと考えている）

### <進め方>

- ① 参加者みなで状況設定を読み、確認し合う
- ② 配役の担当を決める
- ③ ロールプレイをする
  - ・役者になったそれぞれが役になりきってセリフを言う
- ④ 司会者は頃合いをみて、ロールプレイを終わりにする
- ⑤ ロールプレイの感想を言い合う

<振り返り：参加してみてどうだったか？自分が主催者・司会者ならどうか？>

## テーマ2：家族との関係 × 研修方法1：テキストを参考に、自由に話し合う

### <事前準備>

特に無し（ただし、テキストを用意する、もしくは読んできてもらう）

### <今日使う質問>

「入居者の家族とのかかわりについて、どんなことを気をつけていますか？」

### <進め方>

- ① 司会者はテキストの16頁を参考に、導入としての質問を設定し、参加者に投げかける
- ② 自由に話したい人が話す
- ③ 司会者は適宜進行する

<振り返り：参加してみてどうだったか？自分が主催者・司会者ならどうか？>

## テーマ2：家族との関係 ×

### 研修方法2：事例を用いた書き込み法（インシデントプロセス法の単純形）

#### <事前準備>

- ① 参加者に200字程度にまとめた出来事事例（問題にしたい場面での関わり）を提出してもらう
- ② 書き込み用シートを用意する

#### <今日使う事例>

「入居者Aさんは、ホームでの暮らしを楽しんでおり、実家への帰宅は数ヶ月に1度程度。母親は頻繁に電話をかけてくるだけでなく、ホームを訪問し、Aさんの部屋の掃除をしたり、世話人のつくる料理などに意見をする。Aさんも喜んでいるかどうかわからないし、世話人としても色々な判断で行っていることも理解してくれない。どうすればいいか。」

#### <進め方>

- ① 事例提出者は、事例を具体的に説明する（ここに書かれていない事に関しては想像で）
- ② 司会者は、その場면을参加者全員が具体的にイメージできるよう質問する
- ③ 参加者は、自分ならどう関わるかを自分の言葉で、印象、対応策、その理由について書き込み用シートに書き込む
- ④ それぞれが机の中央にシートを出し合い、みんなに見えるようにし、発表する
- ⑤ 司会者は、それぞれに対し、書き込まれた内容が具体的になるように質問する
- ⑥ 事例提出者が、気づいたこと、今ならどう関わるかなど発表する
- ⑦ 参加者が感想を述べ合う

<振り返り：参加してみてどうだったか？自分が主催者・司会者ならどうか？>

## テーマ2：家族との関係 × 研修方法3：ロールプレイ

### <事前準備>

- ① 主催者側で、ロールプレイで取り上げたい状況を設定する
- ② ①に伴い、配役を定める

### <今日使う状況設定と配役>

状況：入居者 A さんは、ホームでの暮らしを楽しんでおり、実家への帰宅は数ヶ月に 1 度程度。母親は頻繁に電話をかけてくるだけでなく、ホームを訪問し、A さんの部屋の掃除をしたり、世話人のつくる料理などに意見を言う。A さんも喜んでいるかどうかわからないし、世話人としても色々な判断で行っていることも理解してくれない。

配役：①世話人（母親の対応に困っている） ②A さんの母親（世話人に対して不満がある）  
③A さん（どうしてよいのかわからない）

### <進め方>

- ① 参加者みなで状況設定を読み、確認し合う
- ② 配役の担当を決める
- ③ ロールプレイをする
  - ・役者になったそれぞれが役になりきってセリフを言う
- ④ 司会者は頃合いをみて、ロールプレイを終わりにする
- ⑤ ロールプレイの感想を言い合う

<振り返り：参加してみてどうだったか？自分が主催者・司会者ならどうか？>

## 入会のご案内

### 事務局連絡先

入会、退会、住所変更、各種問い合わせ、メーリングリスト登録申し込み、メーリングリストのアドレス変更については、下記までお願いします。

#### 【学会事務局】

FAX:042-344-1889

E-mail:info-gh-gakkai@shiraume.ac.jp

住所:〒187-8570 小平市小川町1-830

白梅学園大学 堀江研究室

#### <入会申し込み郵送先>

郵送での入会申し込みや問い合わせの場合は、

〒238-8522 横須賀市平成町1-10-1

神奈川県立保健福祉大学 在原 宛

電話対応は常駐しておりませんので、できるだけFAXか郵送、電子メールでご連絡ください。

### 入会・退会の流れ

入会申し込みの際には、「日本グループホーム学会入会希望」と明記の上、氏名、郵便番号、住所、所属、電話番号、FAX番号、メールアドレスを記入して事務局までお申し込みください。

なお、会員専用メーリングリストへの登録も希望する方は、「メーリングリスト登録希望」と明記してください。（会員登録せずにメーリングリストのみ登録することはできません。）

新規入会、退会の手続きは、登録されるまでに申し込みから1～2ヶ月かかることもありますので、ご了承ください。

入会・退会手続きが完了した旨の通知はいたしません。会費振込みの際の郵便振替受領書を領収書に代えさせていただきますので、保存をお願いします。入会登録された後に、機関誌「季刊グループホーム」をお送りしますので、お待ちくださいますようお願いいたします。どの時期の入会でも年会費は同じですが、当該年度に発行した機関誌のバックナンバーで在庫があるものを全てお送りします。

なお、会員は個人のみです。団体名での会員登録はできません。



# 障害のある人と援助者でつくる 日本グループホーム学会の テキストのご案内



## 障害のある人の地域の暮らしを支える スタッフ・世話人のための グループホーム援助のポイント

■ B5版 カラー 44頁

グループホームにおける援助についてまとめた研修用テキストです。世話人やサービス管理責任者のみなさんが各地で集まって、研修を行うために作成されました。受講用のテキストです。研修の研修のためにまとめて購入することができます。



## 障害のある人の地域の暮らしを支える スタッフ・世話人のための グループホーム援助のポイント——詳細版

■ B5版 カラー 112頁

グループホーム研修のグループホーム研修のための講師マニュアルです。援助のポイントをさらに詳しく解説してあります。DVD「日々是好日」と合わせてご活用ください。



## 日々是好日 グループホームで暮らすということ

■ DVD 本編 20分

スタッフ・世話人のための研修などに活用できる視聴覚教材として、2か所のグループホームでの日々の暮らしを取材し映像で紹介しました。特に、「障害の重い人の暮らしを支えるグループホーム」をご覧ください。またDVDの中には、「これからグループホームでの暮らしを始める方へ」という小冊子（18ページ）が入っています。





---

## 障害のある子どもにこそ 地域のふつうのふつうの住まいが必要です

「障害児の住まいの場のあり方に関する研究」報告書

---

■ A4版 100頁

わが国の障害児支援の中で、子どもの住まいの場の検討は非常に遅れています。本研究では、「子どもが親元で暮らし続けるための地域支援」「社会的養護を必要とする児童の良質な暮らしの場の確保」「地域支援と社会的養護支援の相互乗り入れ、あるいは有機的で柔軟な連携」等について、横浜、札幌地域の実践を分析しながら検討しました。里親制度についても言及しています。



---

## 2007年度コア研修スタッフ報告書

### よりピアな関係を求めて、地域の グループホーム同士の横のつながりをつくろう

～全国地域に、グループホーム世話人の話し合いの場を～

---

■ A4版 64頁

本学会では、全国各地で世話人同士のネットワークや研修の場をつくり、話し合いや情報交換ができるように、その中心となる役割（コアスタッフ）の方向けの研修を行いました。本報告書では、全国各地域のコアスタッフが集まった研修の報告と、それを受けて各地で実際に行った世話人研修の実施方法と成果を報告しています。特に、研修方法の一つとして「インシデントプロセス法」、「問題解決型」のグループワークの方法についての解説も掲載しています。